

COMWARE

帳票作成/印刷支援ツール **C O R E P O**
Active X版 印刷エンジン
リファレンス ガイド

ご注意

- ・本製品の一部または全部を弊社の書面による許可なく複写・複製することは、その形態を問わず、禁じます。
- ・このソフトウェアは、コンピュータ1台につき1セット購入が原則になっております。
- ・本製品の内容・仕様は、訂正・改善のため予告なく変更することがあります。
- ・本製品に同封のソフトウェア使用許諾書に基づいて個人で使用する場合を除いて、弊社の承認なしにこのソフトウェアおよびマニュアルを使用することを固くお断りします。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については責任を負いかねますので、ご了承ください。
- ・本製品の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社まで連絡ください。

Microsoft、Windows、Visual Basic、Visual C++、Visual Studio、Visual Studio.Net は米国マイクロソフト社の登録商標です。
C++Builder、Delphi は米国ボウランド社の登録商標です。

帳票作成・印刷支援ツール

C O R E P O

Copyright(C)2003 有限会社コムウェア
All rights reserved.

本マニュアルの一部、または全部を、有限会社コムウェアの
書面による許可なく複製、送信、複写、転載、情報検索のための保存、
および他の言語に翻訳することを禁止します。

開発：有限会社コムウェア
〒373-0801 太田市台之郷町 601-2
TEL 0276 48 0811
FAX 0276 48 0815

目次

ごあいさつ.....	7
サポート.....	8
動作環境.....	9
特徴.....	10
第1章 インTRODクシヨN	11
1.1 レポRト印刷エンジNのプロジェクTへの組み込み.....	11
1.1.1 Visual Basic .NET / C#.NETのWindows アプリケシヨ Nの場合.....	11
1.1.2 ASP .NETアプリケシヨでクライアントサイDに組み込む場合 ...	12
1.1.3 ASP .NETアプリケシヨでサーバーサイDに組み込む場合	12
1.1.4 Visual Basic 6.0の場合.....	14
1.2 プログラミングの概要.....	15
1.2.1 オブジェクT	15
1.2.2 セシヨN.....	15
1.3 配布可能ファイル.....	17
1.4 コントロRルをHTML ページで使用する.....	18
1.4 ASPサーバーサイD・プログラミングでの制限.....	19
1.6 レポRト・オブジェクTのプロパティメ/メソッド一覽.....	20
第2章 コントロRル・リファレンス	26
2.1 レポRト・オブジェクTのプロパティメ/メソッド.....	26
2.1.1 レポRト・オブジェクTのプロパティ	26
Copies プロパティ	26
DefaultSource プロパティ	27
ErrorCode プロパティ	28
hCwRep プロパティ	29
NetPort プロパティ	30
NetPassword プロパティ	31
NetUserName プロパティ	32
Orientation プロパティ	33
OverlayPage プロパティ	34
PaperLength プロパティ	35
PaperSize プロパティ.....	36
PaperWidth プロパティ	37
Preview プロパティ	38
PrinterName プロパティ	39
ProxyServer プロパティ	40

PrtFilePath プロパティ	41
ReportPath プロパティ	42
SelectedItem プロパティ	43
SelectedPage プロパティ	44
Version プロパティ	45
WinErrorCode プロパティ	46
2 . 1 . 2 レポート・オブジェクトのメソッド	47
CheckDupGrpBound メソッド	47
ClearAllBarcode メソッド	48
ClearAllImage メソッド	49
ClearAllText メソッド	50
ClosePrintJob メソッド	51
CreateReport メソッド	52
CreateItem メソッド	53
DeleteItem メソッド	54
DupGroup メソッド	55
Item メソッド	56
ItemByGrpIdx メソッド	57
OpenPrintJob メソッド	58
PrinterSetupDlg メソッド	60
PrinterSetupDlg2 メソッド	61
PrintReport メソッド	62
RepeatGroup メソッド	63
SelectFirstItem メソッド	64
SelectItem メソッド	65
SelectItemByGrpIdx メソッド	66
SelectNextItem メソッド	67
SetDEVMODE メソッド	68
SetGrpVisible メソッド	69
SetOffset メソッド	70
2 . 2 アイテム・オブジェクトのプロパティメ/メソッド	71
2 . 2 . 1 アイテム・オブジェクトのプロパティ	71
BarBackColor プロパティ	71
Barcode プロパティ	72
BarcodeRotate プロパティ	73
BarColor プロパティ	74
BarRatio プロパティ	75
BrushColor プロパティ	76
BrushStyle プロパティ	77
CapStyle プロパティ	78
CharSpace プロパティ	79
Fixed プロパティ	80
FontColor プロパティ	81
FontName プロパティ	82
FontSize プロパティ	83
FontStyle プロパティ	84
GroupName プロパティ	85
Height プロパティ	86
HorzAlign プロパティ	87

ImageStretch プロパティ	88
ItemName プロパティ	89
ItemType プロパティ	90
Left プロパティ	91
LineSpace プロパティ	92
MultiLine プロパティ	93
PenColor プロパティ	94
PenStyle プロパティ	95
PenWidth プロパティ	96
Round プロパティ	97
Text プロパティ	98
TextEscapement プロパティ	99
Top プロパティ	100
VertAlign プロパティ	101
Visible プロパティ	102
Width プロパティ	103
Wordwrap プロパティ	104
2 . 2 . 2 アイテム・オブジェクトのメソッド	105
Bound メソッド	105
CheckDupBound メソッド	106
Clear メソッド	107
DupBoxLine メソッド	108
GetTextMetrics メソッド	109
Rename メソッド	110
Repeat メソッド	111
SetDIBits メソッド	113
SetDPI メソッド	114
SetDoubleToStr メソッド	115
SetForeground メソッド	117
SetImageDIB メソッド	118
SetImagePath メソッド	119
SetIntToStr メソッド	120
SetUIntToStr メソッド	122
2 . 3 プレビュー・オブジェクトのプロパティ/メソッド	124
2 . 3 . 1 プレビュー・オブジェクトのプロパティ	124
CloseButton プロパティ	124
Height プロパティ	125
hWnd プロパティ	126
Left プロパティ	127
MaxPage プロパティ	128
Page プロパティ	129
PrintButton プロパティ	130
Status プロパティ	131
StatusBar プロパティ	132
ToolBar プロパティ	133
Top プロパティ	134
ViewScale プロパティ	135
Width プロパティ	136
2 . 3 . 2 プレビュー・オブジェクトのメソッド	137

DoPrint メソッド.....	137
HidePreview メソッド.....	138
SetBounds メソッド.....	139
ShowPreview メソッド.....	140
第3章 プログラミング・ガイド.....	141
3.1 レポートアクセス・セッションの開始と終了.....	141
3.2 印刷ジョブ・セッションの開始と終了.....	142
3.3 印刷データのファイル出力.....	143
3.4 リpeatモードでの印刷.....	144
3.5 印刷データファイルの印刷.....	147
3.6 エラーコードの取得.....	148
3.7 用紙やプリンタの設定.....	149
3.7.1 印刷時に印刷ダイアログ画面を表示して、用紙やプリンタの設定を行う...	149
3.7.2 印刷時、レポート印刷エンジンに直接指定する.....	149
3.8 文字列をテキストアイテムに設定する.....	151
3.9 数値を文字列に変換してテキストアイテムに設定する.....	152
3.10 文字列をバーコードアイテムに設定する.....	154
3.10.1 文字列を設定する.....	154
3.10.2 CODE 128に関する補足説明.....	155
3.10.3 EAN 128に関する補足説明.....	157
3.10.4 CODE 39フルアスキーに関する補足説明.....	158
3.11 フォントの色・体裁をテキストアイテムに設定する.....	160
3.12 表示・非表示をアイテムに設定する.....	161
3.13 枠や線の色・模様，塗りつぶしの色・模様をアイテムに設定する.....	162
3.14 イメージをイメージアイテムに設定する.....	163
3.15 ASP.NETのサーバーサイドのプログラム例.....	164
付録.....	166
エラーコード.....	166

ごあいさつ

この度は、弊社ソフト「COREPO」をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

「COREPO」(以下「コレポ」と表記)は、帳票をデザインするために必要な様々な機能を取り揃えたもっともパワフルな帳票作成・印刷支援ツールです。

ご使用いただく前に、パッケージに添付されているソフトウェア使用許諾契約書、本リファレンスガイドおよび、ヘルプをお読みいただき、コレポの機能をご活用ください。

なお、製品の内容には万全を期しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載漏れなどお気付きの点がありましたら、お手数ですが弊社までご連絡いただければ幸いです。

有限会社コムウェア
コレポ開発担当者一同

サポート

本製品のサポートは基本的には E-Mail、Fax にて行わせていただいております。また、Web サーバーでの FAQ 掲示、ご意見・ご要望に対処したモジュールを自由にダウンロードできる環境もご用意しておりますので、まず、そちらをご参照ください。

有限会社 コムウェア

〒373-0801 群馬県太田市台之郷町601番地の2

E-Mail crp-support@com-ware.jp

コレポ サポート窓口 TEL 0276-46-2502

FAX 0276-48-0815

電話がつながりにくい場合が発生し、お客様にご迷惑をおかけしています。お手数でも、なるべく、電子メールで、お問合せくださいますようお願い申し上げます。

動作環境

コレポ ActiveX 版 印刷エンジンをご使用いただくには、次の動作環境が必要です。

日本語オペレーティングシステム

Microsoft Windows 95osr2/98se/Me/NT4.0sp3/2000/Xp

コンピュータ本体

- ・ Pentium166MHz 以上のプロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ
- ・ 100MB 以上の空き容量を持つハードディスク
- ・ CD-ROM ドライブ
- ・ 日本語オペレーティングシステムが推奨するメモリ容量

特 徴

コレポ ActiveX 版 印刷エンジンを使えば、C,C++,Visual Basic,Delphi といった ActiveX コントロールにアクセスできるプログラミング言語を使う開発者は、簡単なコーディングで、洗練されたレポートの出力の機能をアプリケーションに追加することができます。

コレポ印刷エンジンは、他のアプリケーションに、コレポ・デザイナーで作成したレポートの出力制御の機能を提供する ActiveX コントロールです。コレポ正規ユーザであれば、ロイヤリティ無しに ()、作成したアプリケーションに印刷エンジン ActiveX コントロール(COREPOX.DLL と CWREPENG.DLL と CWBARCODE.DLL)を付けて出荷することができます。

第 1 章

イントロダクション

この章は、コレポ ActiveX 版 印刷エンジンを紹介し、コレポ ActiveX 版 印刷エンジンおよび、本マニュアルの基本的な使い方に慣れていただくためのものです。

1.1 レポート印刷エンジンのプロジェクトへの組み込み

印刷エンジンにアクセスするためには、印刷エンジン ActiveX コントロール (COREPOX.DLL) をプロジェクトに組み込む必要があります。以下にプロジェクトに組み込む手順を示します。

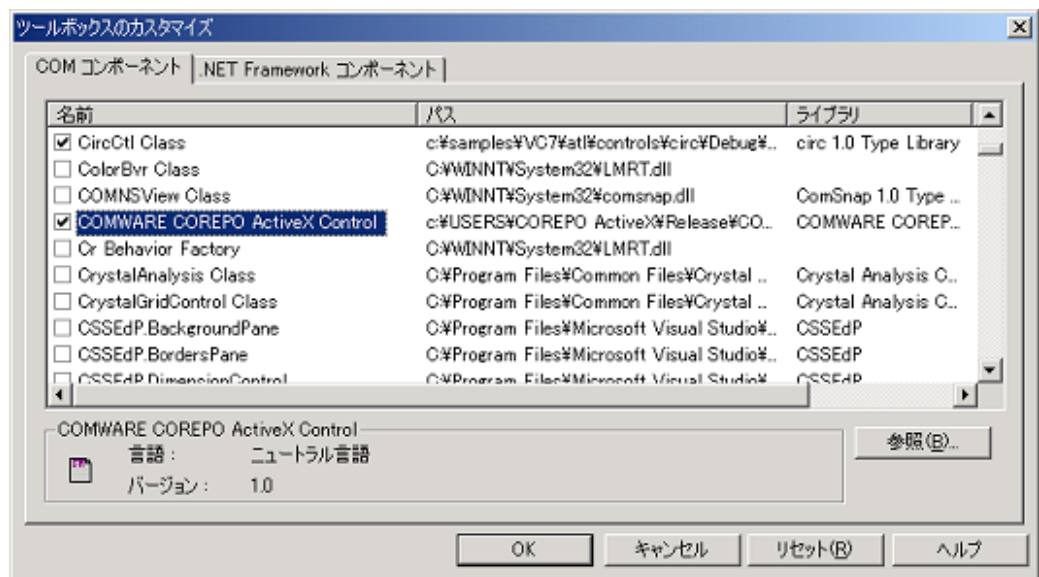
1.1.1 Visual Basic .NET / C#.NET の Windows

アプリケーションの場合

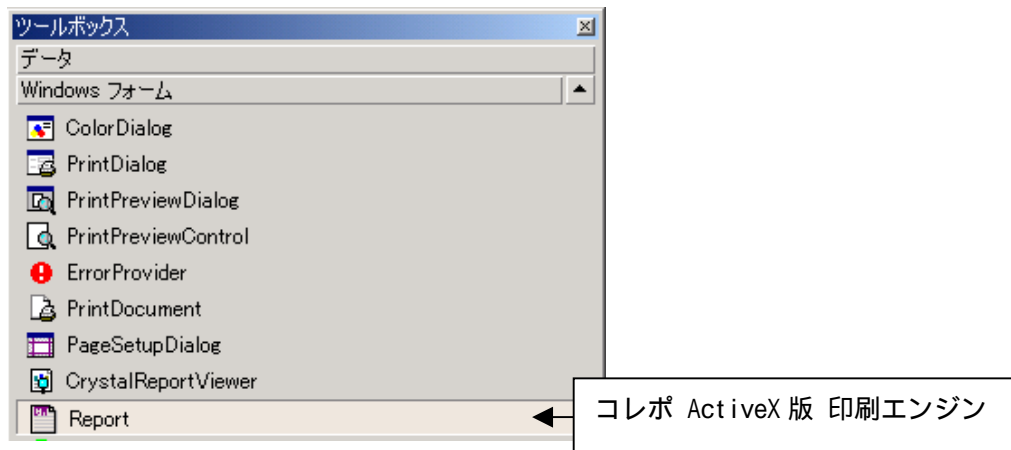
Visual Basic の [ツール (T)] メニューから [ツールボックスのカスタマイズ (X) ...] を選択します。

[COM コンポーネント] タブから、[COMWARE COREPO ActiveX Control] を選択します。

使用されるコントロールのチェックボックスがチェックされたら <OK> ボタンをクリックします。



ツールボックスに印刷エンジン ActiveX コントロールのアイコンが表示されます。



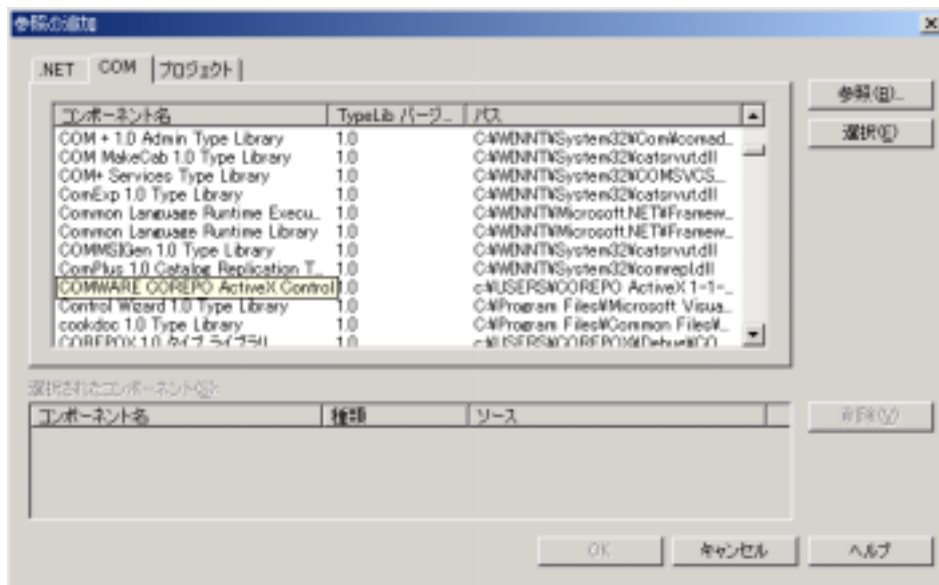
1.1.2 ASP .NETアプリケーションでクライアントサイドに組み込む場合

前述の「Visual Basic .NET / C# .NETのWindowsアプリケーションの場合」と同じ方法で組み込みます。

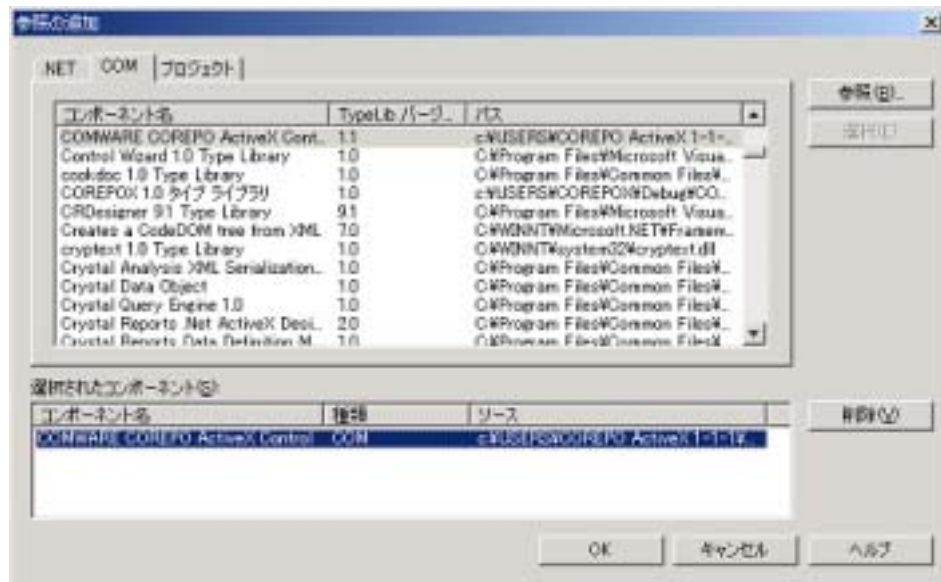
1.1.3 ASP .NETアプリケーションでサーバーサイドに組み込む場合

Visual Basic .NET / C# .NETの[プロジェクト(P)]メニューから[参照の追加(R)]を選びます。

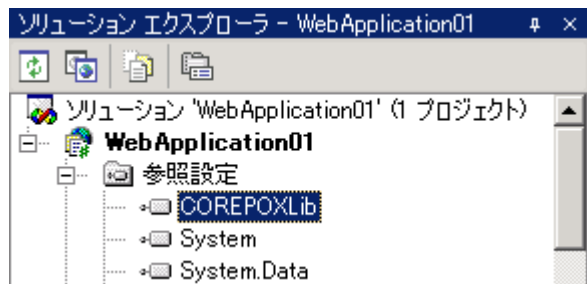
参照の追加ダイアログの[COM]タブから、[COMWARE COREPO ActiveX Control]をマウスでクリックして選択します



参照の追加ダイアログの[選択]ボタンを押して「選択されたコンポーネント(S)」に追加します。



参照の追加ダイアログ[OK]ボタンを押下すると、ソリューションエクスプローラの参照設定に「COREPOXLib」が追加されます。

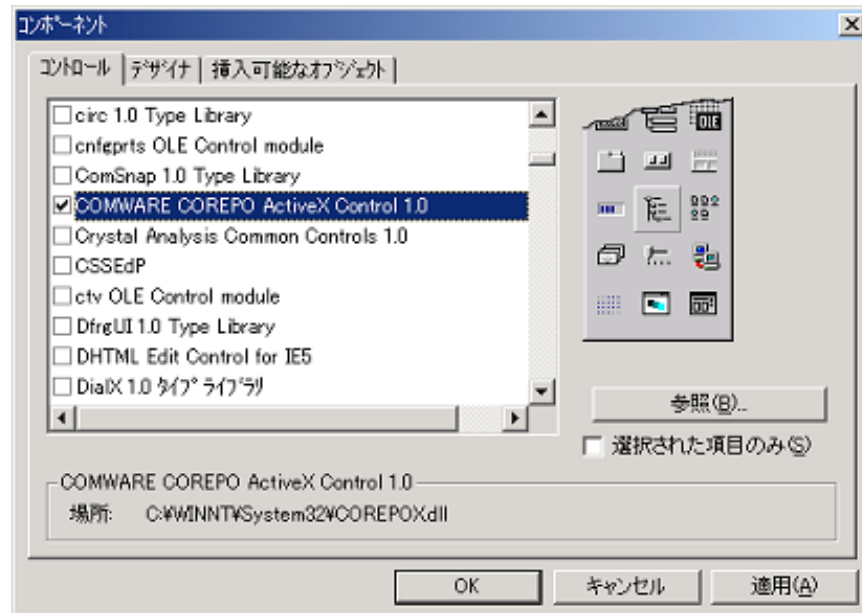


1.1.4 VisualBasic6.0の場合

VisualBasicの[プロジェクト(P)]メニューから[コンポーネント(O)...]を選択します。

[コントロール]タブから、[COMWARE COREPO ActiveX Control 1.0]を選択します。

使用されるコントロールのチェックボックスがチェックされたら<OK>ボタンをクリックします。



ツールボックスに印刷エンジン ActiveX コントロールのアイコンが表示されます。



1.2 プログラミングの概要

1.2.1 オブジェクト

COREPO ActiveX レポート印刷エンジンは3つのオブジェクトから構成されます。

レポートオブジェクト

レポートオブジェクトは、レポートを制御するオブジェクトです。他の2つのオブジェクト(アイテム・プレビュー)の親オブジェクトです。

アイテムオブジェクト

アイテムオブジェクトは、デザイナーでレポートに貼り付けたアイテムを制御するオブジェクトです。

プレビューオブジェクト

プレビューオブジェクトは印刷プレビュー画面を制御するオブジェクトです。

1.2.2 セッション

レポート印刷エンジンの制御は2つのセッションに分けられます。

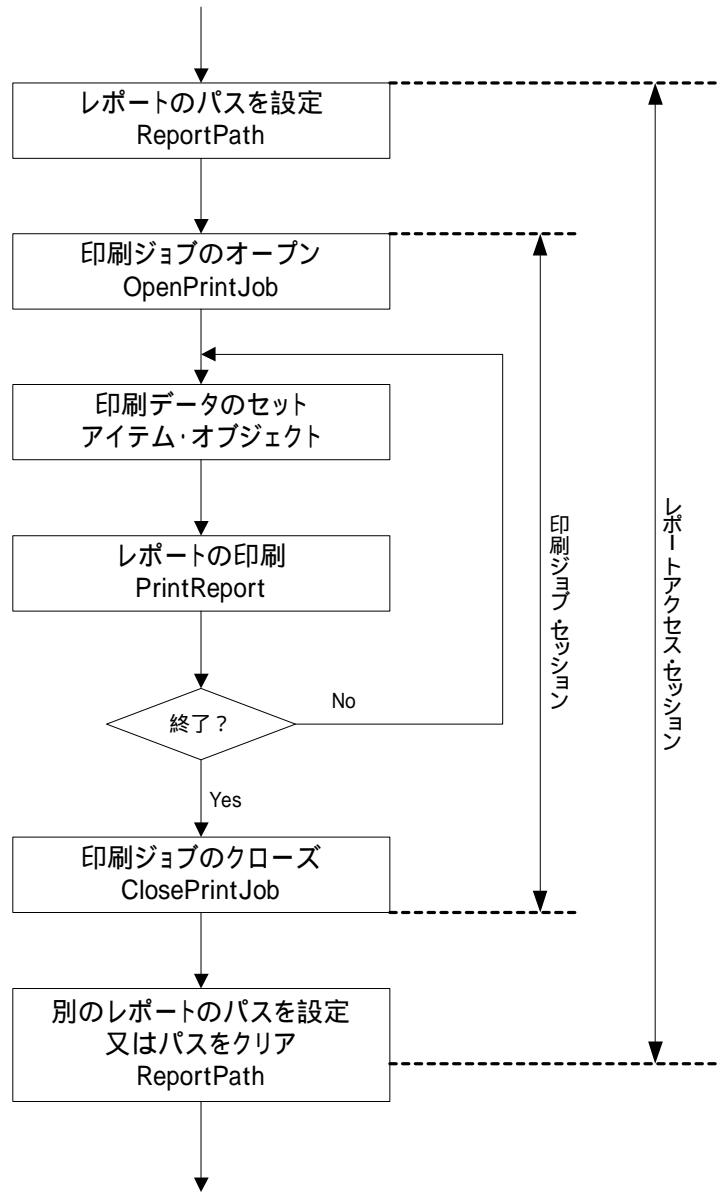
レポートアクセス・セッション

レポートアクセス・セッションはレポートファイルのパス設定で始まり、別のレポートパスが設定されるか、パスをクリアするまで、そのセッションが続きます。

印刷ジョブ・セッション

印刷ジョブ・セッションは、印刷ジョブのオープン (OpenPrintJob) で始まり、印刷ジョブのクローズ (ClosePrintJob) で終わります。

以下に示すのは、簡単な印刷エンジンのプログラミングの流れです。



1.3 配布可能ファイル

作成したアプリケーションがコレポ ActiveX 版 印刷エンジンにアクセスするためには、以下のランタイムファイルを含める必要があります。以下のランタイムファイルはコレポ正規ユーザーに限り、作成したアプリケーションに含めて配布することが可能です。配布可能ファイルはコレポインストールフォルダ（デフォルト C:\Program Files\COREPO）に格納されています。

ActiveX コントロール	COREPOX.DLL
ダイナミックリンクライブラリ	CWREPENG.DLL 及び CWBARCODE.DLL
パッケージファイル	COREPOAX.CAB ()
ライセンスパッケージ	COREPO.LPK ()

使用許諾(ライセンス)のないコンピュータ上で、COREPO ActiveX コントロールを HTML ページで使用するには、パッケージファイルとライセンスパッケージをサーバー上に配置する必要があります。

また、コレポ印刷データファイルを参照する必要がある場合は、コレポ印刷データファイル参照用コレポビューアー(ビューアー-本体もしくはインストーラ)を作成したアプリケーションに含めて配布することが可能です。

コレポビューアー CRPVIEW.exe

コレポビューアー・インストーラ CRVINST.exe

(コレポインストールCDのCRDVIEWフォルダにCRVINST.EXEが有ります)

1.4 コントロールを HTML ページで使用する

コレポ ActiveX レポート印刷エンジンコントロールを HTML ページで使用するには、ダウンロード用の配布ファイルのパッケージファイル(COREPOAX.CAB)とライセンスパッケージ(COREPO.LPK)をサーバー上に配置します。ライセンスパッケージは必ず HTML ページと同じ位置に配置します。コレポ ActiveX コントロール宣言の直前に、ランタイムライセンス取り込みの宣言を記述します。以下のコードがランタイムライセンス取り込みの宣言です。

```
<OBJECT CLASSID="clsid:5220cb21-c88d-11cf-b347-00aa00a28331">  
  <PARAM NAME="LPKPath" VALUE="corepo.lpk">  
</OBJECT>
```

次に、パッケージファイルのインストールを記述します。以下の記述を ActiveX コントロール宣言内に行います。

```
ODEBASE="http://www.com-ware.jp/ActiveX/COREPOAX.CAB#Version=1,0,0,  
001"
```

<http://www.com-ware.jp/ActiveX/COREPOAX.CAB> より Version1.0.0.1 のコントロールをインストールすることを意味しています。

なお、パッケージファイル(COREPO.CAB)にはデジタル署名はなされていないので、必要な場合は、ユーザー自身で、デジタル署名を取得して、CAB ファイルに署名します。

以下に HTML ページでの記述のサンプルを示します。

例

```
<OBJECT CLASSID="clsid:5220cb21-c88d-11cf-b347-00aa00a28331">  
  <PARAM NAME="LPKPath" VALUE="corepo.lpk">  
</OBJECT>  
<OBJECT id=Report1  
data=data:application/x-oleobject;base64,pbM4Quo2t06+n0dJSnNR3QAHAABP  
AwAATwMAAA==  
classid=clsid:4238B3A5-36EA-4EB7-BE9F-47494A7351DD  
CODEBASE="http://www.com-ware.jp/ActiveX/COREPOAX.CAB#Version=1,0,0,0  
01">  
</OBJECT>
```

参照

署名：日本ベリサイン(株) <http://www.verisign.co.jp>

パッケージファイル：マイクロソフト社 http://www.microsoft.com/japan/developer/library/vccore/_core_upgrading_an_existing_activex_control_to_be_used_on_the_internet.htm

1.4 ASP サーバーサイド・プログラミングでの制限

コレポ印刷エンジンにおける ASP サーバーサイドプログラミングでの制限事項を下記に示します。

ASP サーバーサイドのプログラムから、直接、画面 / プリンタの制御はできません。このため、以下のプロパティ及びメソッドは正常に動作しません。

(1) レポート・オブジェクト

OpenPrintJOB で prtFILE オプションを指定しない場合

CreateReport メソッド

PrinterSetupDlg 及び PrinterSetupDlg2 メソッド

(2) アイテム・オブジェクト

GetTextMetrics メソッド

(3) プレビュー・オブジェクト

プレビューオブジェクト全てのプロパティ・メソッド

注) ASP でプログラミングする場合、サーバーサイドで、印刷データを作成し、クライアントサイドで実際にプリンタを制御して印刷します。詳しくはプログラミングガイドの「ASP.NETのサーバーサイドのプログラム例」及びプロパティ / メソッドを参照ください。

1.6 レポート・オブジェクトのプロパティメ/メソッド一覧

レポート・オブジェクトのプロパティメ/メソッド一覧

プロパティ	説明
Copies プロパティ	印刷部数を取得または設定します。
DefaultSource プロパティ	給紙方法を取得または設定します。
ErrorCode プロパティ	エラーコードを取得します。
hCwRep プロパティ	レポートハンドルを取得します。
NetPort プロパティ	接続するサーバー側のポート番号を取得または設定します。
NetPassword プロパティ	プロキシサーバーまたは、ftp サーバーのパスワードを取得または設定します。
NetUserName プロパティ	プロキシサーバーまたは、ftp サーバーのユーザー名を取得または設定します。
Orientation プロパティ	用紙の向きを取得または設定します。
OverLayPage プロパティ	オーバーレイとして使用するレイアウトページを取得または設定します。
PaperLength プロパティ	用紙の長さを取得または設定します。
PaperSize プロパティ	用紙の種類を取得または設定します。
PaperWidth プロパティ	用紙の幅を取得または設定します。
Preview プロパティ	レポート内のプレビュー画面にアクセスするプレビュー・オブジェクトを取得します。
PrinterName プロパティ	プリンター名を取得または設定します。
ProxyServer プロパティ	プロキシサーバ名を取得または設定します。
PrtFilePath プロパティ	印刷データファイルのパスを設定します。
ReportPath プロパティ	レポートのパスを取得または設定します。
SelectedItem プロパティ	選択されているアイテム・オブジェクトを取得します。
SelectedPage プロパティ	印刷対象のレイアウトページを取得または設定します。
Version プロパティ	印刷エンジンのバージョンを取得します。
WinErrorCode プロパティ	拡張エラーコードを取得します。

メソッド	説明
CheckDupGrpBound メソッド	グループリピートモードに設定されているグループに対して、次に複製されるそのグループが、レポートの印刷可能範囲に作成できるか否かの確認をします。
ClearAllBarcode メソッド	SelectedPage で示されるページ内の全バーコード・アイテムのコードデータをクリアします。
ClearAllImage メソッド	SelectedPage で示されるページ内の全イメージ・アイテムのイメージデータをクリアします。
ClearAllText メソッド	SelectedPage で示されるページ内の全テキスト・アイテムのテキストデータをクリアします。
ClosePrintJob メソッド	印刷ジョブを閉じます (終了します)。
CreateReport メソッド	レポートを生成します。
CreateItem メソッド	選択されているレイアウトページにアイテムを生成 (挿入) します。
DeleteItem メソッド	選択されているレイアウトページから指定のアイテムを削除します。
DupGroup メソッド	グループリピートモードに設定されているグループの複製を有効にして、そのグループの次の複製を作ります。
Item メソッド	レポート内のアイテムにアクセスするアイテム・オブジェクトを取得します。
ItemByGrpIdx メソッド	レポート内のアイテムにアクセスするアイテム・オブジェクトを取得します。グループの複製をした時に付けたインデックス (添え字) 部分を変数として扱えるようになっています。
OpenPrintJob メソッド	印刷ジョブを開きます (開始します)。
PrinterSetupDlg メソッド	ページ設定ダイアログ画面を開きます。
PrinterSetupDlg2 メソッド	プリンタ設定ダイアログ画面を開きます。
PrintReport メソッド	SelectedPage で選択されているページを印刷します。
RepeatGroup メソッド	グループをグループリピートモードに設定します。
SelectFirstItem メソッド	SelectedPage で選択されているページの最初に定義されているアイテムを選択します。
SelectItem メソッド	アイテムを選択します。
SelectItemByGrpIdx メソッド	アイテムを選択します。グループの複製をした時に付けたインデックス (添え字) 部分を変数として扱えるようになっています。
SelectNextItem メソッド	直前の SelectFirstItem メソッドに続けて、次のアイテムを選択します。
SetDEVMODE メソッド	指定の DEVMODE 構造体データをプリンタに設定します。
SetGrpVisible メソッド	グループの表示・非表示を設定します。
SetOffset メソッド	用紙の印字開始位置を調整します。

アイテム・オブジェクトのプロパティメ/メソッド一覧

プロパティ	説明
BarBackColor プロパティ	バーコードの背景色を取得または設定します。
Barcode プロパティ	バーコードの種類を取得または設定します。
BarcodeRotate プロパティ	バーコードの回転表示を取得または設定します。
BarColor プロパティ	バーコードのバーの色を取得または設定します。
BarRatio プロパティ	バーコードの細いバーと太いバーの比率を取得または設定します。
BrushColor プロパティ	塗りつぶしの色を取得または設定します。
BrushStyle プロパティ	塗りつぶしの模様を取得または設定します。
CapStyle プロパティ	線の端の形を取得または設定します。
CharSpace プロパティ	文字の間隔を取得または設定します。
Fixed プロパティ	固定項目とするか否かを設定します。
FontColor プロパティ	フォントの色を取得または設定します。
FontName プロパティ	フォント名を取得または設定します。
FontSize プロパティ	フォントの大きさを取得または設定します。
FontStyle プロパティ	フォントの文字飾りを取得または設定します。
GroupName プロパティ	アイテムのグループ名を取得します。
Height プロパティ	アイテムの高さを取得または設定します。
HorzAlign プロパティ	文字の寄せを取得または設定します。
ImageStretch プロパティ	イメージをアイテム内に収まるように表示するか否かを取得または設定します。
ItemName プロパティ	アイテムのアイテム名を取得または設定します。
ItemType プロパティ	アイテムの種類を取得します。
Left プロパティ	アイテムの左端位置を取得または設定します。
LineSpace プロパティ	テキスト行の間隔を取得または設定します。
MultiLine プロパティ	テキスト行のマルチライン（単行/複数行）モードを取得または設定します。
PenColor プロパティ	線の色を取得または設定します。
PenStyle プロパティ	線の模様を取得または設定します。
PenWidth プロパティ	線の太さを取得または設定します。
Round プロパティ	枠線の角の丸みを取得または設定します。
Text プロパティ	テキスト（文字列）を取得または設定します。
TextEscapement プロパティ	テキストの縦書き・横書きを取得または設定します。
Top プロパティ	アイテムの上端位置を取得または設定します。
VertAlign プロパティ	テキスト行の寄せを取得または設定します。
Visible プロパティ	アイテムの印刷（表示）の有無を取得または設定します。
Width プロパティ	アイテムの幅を取得または設定します。

Wordwrap	テキストの折り返しの有無を取得または設定します。
FontStyle プロパティ	フォントの文字飾りを取得または設定します。
GroupName プロパティ	アイテムのグループ名を取得します。
Height プロパティ	アイテムの高さを取得または設定します。
HorzAlign プロパティ	文字の寄せを取得または設定します。
ImageStretch プロパティ	イメージをアイテム内に収まるように表示するか否かを取得または設定します。
ItemName プロパティ	アイテムのアイテム名を取得または設定します。
ItemType プロパティ	アイテムの種類を取得します。
Left プロパティ	アイテムの左端位置を取得または設定します。
LineSpace プロパティ	テキスト行の間隔を取得または設定します。
PenColor プロパティ	線の色を取得または設定します。
PenStyle プロパティ	線の模様を取得または設定します。
PenWidth プロパティ	線の太さを取得または設定します。
Round プロパティ	枠線の角の丸みを取得または設定します。
Text プロパティ	テキスト(文字列)を取得または設定します。
TextEscapement プロパティ	テキストの縦書き・横書きを取得または設定します。
Top プロパティ	アイテムの上端位置を取得または設定します。
VertAlign プロパティ	テキスト行の寄せを取得または設定します。
Visible プロパティ	アイテムの印刷(表示)の有無を取得または設定します。
Width プロパティ	アイテムの幅を取得または設定します。
Wordwrap	テキストの折り返しの有無を取得または設定します。

メソッド	説明
Bound メソッド	アイテムの左位置・上位置・幅・高さを一度に取得します。
CheckDupBound メソッド	アイテムリピートモードに設定されているアイテムに対して、次に複製されるアイテムがレポートの印刷範囲内に作成できるか否かを確認します。
Clear メソッド	アイテムの印刷（表示）データをクリアします。
DupBoxLine メソッド	リピートモードに設定されている線・枠・円（Line/Box/Ellipse）アイテムの複製を有効にして、次のアイテムを複製します。
GetTextMetrics メソッド	テキスト・アイテムの印刷する文字列の高さ・幅を取得します。
Rename メソッド	アイテムのグループ名及び名前を変えます。
Repeat メソッド	アイテムをリピートモードに設定します。
SetDIBits メソッド	ビットマップをイメージ・アイテムに設定します。
SetDPI	イメージの解像度（DPI）を設定します。
SetDoubleToStr メソッド	DOUBLE 型の数値を指定の形式に変換して、テキスト・アイテムに設定します。
SetForeground メソッド	アイテムを前面・背面に移動させます。
SetImageDIB メソッド	ビットマップをイメージ・アイテムに設定します。
SetImagePath メソッド	指定のイメージファイルからイメージを読み込みます。
SetIntToStr メソッド	LONG 型の数値を指定の形式に変換して、テキスト・アイテムに設定します。
SetUIntToStr メソッド	LONG 型の数値を指定の形式に変換して、テキスト・アイテムに設定します。

プレビュー・オブジェクトのプロパティ/メソッド一覧

プロパティ	説明
CloseButton プロパティ	閉じるボタンの有効 / 無効を取得または設定します。
Height プロパティ	プレビュー画面の高さを取得または設定します。
hWnd プロパティ	プレビュー画面のハンドルを取得します。
Left プロパティ	プレビュー画面の左端位置を取得または設定します。
MaxPage プロパティ	総ページ数を取得します。
Page プロパティ	現在表示されているページ番号を取得または設定します。
PrintButton プロパティ	印刷ボタンの有効 / 無効を取得または設定します。
Status プロパティ	プレビュー画面が開いているか、閉じているかの状態を取得します。
StatusBar プロパティ	ステータスバーを表示するか否かを取得または設定します。
ToolBar プロパティ	ツールバーを表示するか否かを取得または設定します。
Top プロパティ	プレビュー画面の上端位置を取得または設定します。
ViewScale プロパティ	プレビュー画面の表示倍率を取得または設定します。
Width プロパティ	プレビュー画面の幅を取得または設定します。

メソッド	説明
DoPrint メソッド	プレビュー画面の印刷ボタン同様に印刷処理を行います。
HidePreview メソッド	プレビュー画面を閉じます。
SetBounds メソッド	プレビュー画面の位置・サイズを設定します。
ShowPreview メソッド	プレビュー画面を開きます。

第 2 章

コントロール・リファレンス

この章は、コレポ ActiveX 版印刷エンジンのプロパティメ/メソッドを紹介します。

2.1 レポート・オブジェクトのプロパティメ/メソッド

2.1.1 レポート・オブジェクトのプロパティ

Copies プロパティ

機 能

印刷部数を取得または設定します。

構 文

```
Report.Copies[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

参 照

PrinterSetupDlg メソッド, PrinterSetupDlg2 メソッド

DefaultSource プロパティ

機能

印刷する用紙の給紙方法を取得または設定します。

構文

```
Report.DefaultSource[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

値の意味は、Windows の DEVMODE 構造体の dmDefaultSource と同じです。詳しくは、Windows GDI を参照してください。

参照

Orientation プロパティ, PaperLength プロパティ, PaperSize プロパティ, PaperWidth プロパティ, PrinterName プロパティ, PrinterSetupDlg メソッド

ErrorCode プロパティ

機 能

エラーコードを取得します。

構 文

```
Report.ErrorCode[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

エラーコード一覧を参照してください。

参 照

WinErrCode プロパティ

hCwRep プロパティ

機 能

レポートハンドルを取得します。このハンドルは、下位 I/F を直接呼び出す必要がある場合に使用します。

構 文

```
Report.hCwRep[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

値が 0 以外の場合、このハンドルが有効となります。

解 説

ReportPath プロパティへの設定が、成功した場合、hCwRep プロパティにレポートハンドルが設定されます。レポート・オブジェクトが有効か否かの判断等に使用できます。また、本コントロールは、DLL 印刷エンジンをラップする ActiveX コントロールです。速度を要求する処理などは、hCwRep プロパティを使い、直接、DLL 印刷エンジン I/F を呼び出すことで、高速化が計れることも有ります。

参 照

ReportPath プロパティ

NetPort プロパティ

機 能

接続するサーバー側のポート番号を取得または設定します。

構 文

```
Report.NetPort [=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

解 説

サーバー上のレポートファイルやイメージファイルを読み込む場合、接続するサーバー側のポート番号を指定します。0を指定するとデフォルトのポート番号が使われます。

参 照

NetUserName プロパティ , NetPassword プロパティ ,
ProxyServer プロパティ , ReportPath プロパティ ,
アイテム・オブジェクトの SetImagePath メソッド

NetPassword プロパティ

機 能

プロキシサーバーまたはftpサーバーのパスワードを取得または設定します。

構 文

```
Report.NetPassword[=String]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

文字列型 (String)

解 説

http 転送で特定のプロキシサーバを経由して、レポートファイルやイメージファイルを読み込む場合、そのプロキシサーバがパスワードを必要とする場合、または、ftp 転送で ftp サーバがパスワードを必要とする場合に指定します。

参 照

NetUserName プロパティ ,ProxyServer プロパティ ,NetPort プロパティ ,ReportPath
プロパティ ,
アイテム・オブジェクトの SetImagePath メソッド

NetUserName プロパティ

機 能

プロキシサーバーのユーザー名または、ftpサーバーのユーザー名を取得または設定します。

構 文

```
Report.NetUserName [=String]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

文字列型 (String)

解 説

http 転送で特定のプロキシサーバを経由して、レポートファイルやイメージファイルを読み込む場合、そのプロキシサーバがユーザー名を必要とする場合、または、ftp 転送で ftp サーバがユーザー名を必要とする場合に指定します。

参 照

NetPassword プロパティ ,NetPort プロパティ ,ProxyServer プロパティ ,ReportPath
プロパティ ,
アイテム・オブジェクトの SetImagePath メソッド

Orientation プロパティ

機 能

印刷する用紙の向きを取得または設定します。

構 文

```
Report.Orientation[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

縦 DMORIENT_PORTRAIT (値 1)

横 DMORIENT_LANDSCAPE (値 2)

値の意味は、Windows の DEVMODE 構造体の dmOrientation と同じです。詳しくは、Windows GDI を参照してください。

参 照

DefaultSource プロパティ , PaperLength プロパティ ,
PaperSize プロパティ , PaperWidth プロパティ ,
PrinterName プロパティ , PrinterSetupDlg メソッド

OverlayPage プロパティ

機能

オーバーレイとして使用するレイアウトページを取得または設定します。

構文

```
Report.OverlayPage[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

印刷しない場合は - 1 を指定します。印刷する場合は、ページ番号 (0 から始まる番号) を指定します。1 ページ目が 0、2 ページ目が 1 となります。

解説

OverlayPage プロパティは、2 つのレイアウトページを重ねわせて印刷したい場合に使用します。

例えば、デザイナーで 1 ページ目に項目だけのページを作成し、2 ページ目に罫線だけのページを作成します。プログラムで、そのレポートを選び、OverlayPage に罫線のページ番号 (1) を設定し、SelectedPage に項目だけのページ番号 (0) を設定して、印刷すると、その 2 つのページが合成されて印刷されます。

参照

SelectedPage プロパティ

PaperLength プロパティ

機 能

印刷する用紙の長さを取得または設定します。

構 文

```
Report.PaperLength[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

用紙の縦方向の長さ (1/10mm単位) を指定します。PaperSize が 0 の場合、指定値が有効となります。

参 照

DefaultSource プロパティ, Orientation プロパティ,
PaperSize プロパティ, PaperWidth プロパティ,
PrinterName プロパティ, PrinterSetupDlg メソッド

PaperSize プロパティ

機 能

印刷する用紙の種類を取得または設定します。

構 文

```
Report.PaperSize[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

用紙サイズの種類を設定します。0 を指定した場合、PaperLength と PaperWidth で指定した用紙サイズが使用されます。PaperSize に 0 以外の値を設定した場合、PaperLength と PaperWidth の値は使用されません。Windows の DEVMODE 構造体の dmPaperSize と同じです。詳しくは、Windows GDI を参照してください。

参 照

DefaultSource プロパティ , Orientation プロパティ ,
PaperLength プロパティ , PaperWidth プロパティ ,
PrinterName プロパティ , PrinterSetupDlg メソッド

PaperWidth プロパティ

機 能

印刷する用紙の幅を取得または設定します。

構 文

```
Report.PaperWidth[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

用紙の横方向の長さ (1/10mm単位) PaperSize が 0 の場合、指定値が有効となります。

参 照

DefaultSource プロパティ, Orientation プロパティ,
PaperSize プロパティ, PaperLength プロパティ,
PrinterName プロパティ, PrinterSetupDlg メソッド

Preview プロパティ

機 能

レポート内のプレビュー画面にアクセスするプレビュー・オブジェクトを取得します。

構 文

```
Report.Preview[=IPreview]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

用紙の横方向の長さ (1/10mm単位) PaperSize が 0 の場合、指定値が有効となります。

解 説

取得できたプレビュー・オブジェクトは、印刷 JOB の開始から印刷 JOB が終了する間、有効となります。他のタイミングでの使用はできません。

参 照

OpenPrintJob メソッド, ClosePrintJob メソッド

PrinterName プロパティ

機 能

プリンター名を取得または設定します。

構 文

```
Report.PrinterName[=String]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

文字列型 (String)

参 照

DefaultSource プロパティ , Orientation プロパティ ,
PaperSize プロパティ , PaperLength プロパティ ,
PaperWidth プロパティ , PrinterSetupDlg メソッド

ProxyServer プロパティ

機 能

プロキシサーバ名を取得または設定します。

構 文

```
Report.ProxyServer[=String]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

文字列型 (String)

参 照

NetUserName プロパティ , NetPassword プロパティ ,
NetPort プロパティ , ReportPath プロパティ ,
アイテム・オブジェクトの SetImagePath メソッド

PrtFilePath プロパティ

機能

印刷データファイルのパスを設定します。

構文

```
Report.PrtFilePath[=String]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

文字列型 (String)

解説

印刷データファイルのパスを指定することで、その印刷データファイルのデータを印刷エンジン内部に読み込み、印刷準備を行います。また、空文字列("")を指定すると、読み込んでいた印刷データファイルの情報を全て開放します。

http 転送で印刷データファイルを開く場合は、印刷データファイルへの URL を指定します。

ftp 転送で印刷データファイルを開く場合は、以下に示す形式で印刷データファイルへのパスを指定します。

ftp 転送の記述形式

ftp://(ftpサーバー名、又は IP アドレス)/(レポートファイルへのパス)

と記述します。

例) ftp サーバー ftp.com-ware.jp で ./Sample/Test.crd を開く場合。

ftp://ftp.com-ware.jp/Sample/Test.crd

となります。

参照

ProxyServer プロパティ , NetUserName プロパティ , NetPassword プロパティ ,
NetPort プロパティ , ReportPath プロパティ ,
アイテム・オブジェクトの SetImagePath メソッド

ReportPath プロパティ

機 能

レポートのパスを取得または設定します。

構 文

```
Report.ReportPath[=String]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

文字列型 (String)

解 説

レポートのパスを指定することで、そのレポートのデータを印刷エンジン内部に読み込み、レポートへのアクセス機能を提供する準備を行います。また、空文字列 ("") を指定すると、読み込んでいたレポートの情報を全て開放します。

http 転送でレポートファイルを開く場合は、レポートファイルへの URL を指定します。

ftp 転送でレポートファイルを開く場合は、以下に示す形式でレポートファイルへのパスを指定します。

ftp 転送の記述形式

ftp://(ftpサーバー名、又は IP アドレス)/(レポートファイルへのパス)
と記述します。

例) ftpサーバーftp.com-ware.jp で./Sample/Test.crp を開く場合。

ftp://ftp.com-ware.jp/Sample/Test.crp
となります。

参 照

ProxyServer プロパティ , NetUserName プロパティ ,
NetPassword プロパティ , NetPort プロパティ

SelectedItem プロパティ

機 能

選択されているアイテムにアクセスするアイテム・オブジェクトを取得します。。

構 文

```
Report.SelectedItem[=Item]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

アイテム・オブジェクト型 (Item)

解 説

SelectedItem プロパティは、Item プロパティ、ItemByGrpIdx プロパティ、SelectItem メソッド、SelectItemByGrpIdx メソッドによって選択されたアイテムにアクセスするアイテム・オブジェクトを取得します。

取得できたアイテム・オブジェクトが有効な期間は、親のレポート・オブジェクトで別のアイテム・オブジェクトを指定するまでの間です。同時に複数のアイテム・オブジェクトにアクセスすることはできません。

参 照

Item プロパティ、ItemByGrpIdx プロパティ、
SelectItem メソッド、SelectItemByGrpIdx メソッド

SelectedPage プロパティ

機 能

印刷・操作対象のフォーマットページを取得または設定します。

構 文

```
Report.SelectedPage[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

ページ番号 (0 から始まる番号) を指定します。1 ページ目が 0、2 ページ目が 1 となります。

解 説

SelectedPage に設定されたページが、印刷・アイテム操作の対象となります。

参 照

OverlayPage プロパティ, PrintReport メソッド,
Item プロパティ, ItemByGrpIdx プロパティ,
SelectedItem プロパティ, SelectItem メソッド,
SelectItemByGrpIdx メソッド

Version プロパティ

機 能

印刷エンジンのバージョンを取得します。

構 文

```
Report.SelectedPage[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

WinErrorCode プロパティ

機 能

拡張エラーコードを取得します。

構 文

```
Report.WinErrorCode[=Long]
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

解 説

ErrorCode プロパティが 268435456 (1000000) の場合、システムエラーであることを示します。この場合、詳細なシステムエラーの内容は、WinErrorCode プロパティより取得できません。WinErrorCode プロパティの内容は、Windows 自身が返すエラーコードです。コードの詳細については、Windows Platform SDK - System Error Codes を参照してください。

括弧内の値は 16 進数値です。

参 照

ErrorCode プロパティ

2.1.2 レポート・オブジェクトのメソッド

CheckDupGrpBound メソッド

機能

グループリピートモードに設定されているグループに対して、次に複製されるそのグループが、レポートの印刷可能範囲に作成できるか否かの確認をします。

書式

```
Function Report.CheckDupGrpBound( nLeft As Long, nTop As Long,  
nWidth As Long, nHeight As Long ) As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

nLeft

次に作成されるグループの左位置を取得します。

nTop

次に作成されるグループの上位置を取得します。

nWidth

次に作成されるグループの幅を取得します。

nHeight

次に作成されるグループの高さを取得します。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。取得したエラーコードがエラー番号5の場合、次に複製されるグループがレポートの印刷範囲内に作成できないことを意味します。この場合、パラメータには、印刷可能範囲が戻されます。

参照

RepeatGroup メソッド, DupGroup メソッド

ClearAllBarcode メソッド

機 能

SelectedPageで示されるページ内の全バーコード・アイテムのコードデータをクリアします。但し、Fixed(固定項目)プロパティがTrueのバーコード・アイテムのコードデータはクリアされません。

書 式

```
Function Report.ClearAllBarcode As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

ClearAllImage メソッド , ClearAllText メソッド ,
アイテム・オブジェクトの Clear メソッド

ClearAllImage メソッド

機 能

SelectedPageで示されるページ内の全イメージ・アイテムのイメージデータをクリアします。但し、Fixed(固定項目)プロパティがTrueのイメージ・アイテムのイメージデータはクリアされません。

書 式

```
Function Report.ClearAllImage As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

ClearAllBarcode メソッド , ClearAllText メソッド ,
アイテム・オブジェクトの Clear メソッド

ClearAllText メソッド

機 能

SelectedPageで示されるページ内の全テキスト・アイテムのテキストデータをクリアします。但し、Fixed(固定項目)プロパティがTrueのテキスト・アイテムのテキストデータはクリアされません。

書 式

```
Function Report.ClearAllText As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

ClearAllBarcode メソッド , ClearAllImage メソッド ,
アイテム・オブジェクトの Clear メソッド

ClosePrintJob メソッド

機 能

印刷ジョブを閉じます(終了します)。

書 式

```
Function Report.ClosePrintJob(bMode As Boolean )As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

bMode

True を指定すると、印刷を行います。False を指定すると、印刷ジョブはキャンセルされ、印刷は行われません。また、印刷データをファイル出力する場合は、True を指定すると印刷データファイルが作成され、False を指定すると、印刷データファイルは作成されません。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

OpenPrintJob メソッド , PrintReport メソッド ,
プレビュー・オブジェクト ShowPreView メソッド

CreateReport メソッド

機 能

レポートを生成します。

書 式

```
Function Report.CreateReport(ReportName As String, _  
                             nMapMode As Long, _  
                             LeftMargin As Long, _  
                             TopMargin As Long, _  
                             RightMargin As Long, _  
                             BottomMargin As Long ) As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

ReportName

レポート名を指定します。

nMapMode

レポート長さの単位を指定します。

0 : ミリメートル(mm)を単位とします。

1 : インチ(inch)を単位とします。

LeftMargin, TopMargin, RightMargin, BottomMargin

レポートの余白を指定します。指定する値は、レポートの長さの単位により異なります。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

LeftMargin 左余白

TopMargin 上余白

RightMargin 右余白

BottomMargin 下余白

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

DefaultSource プロパティ, Orientation プロパティ,

PaperLength プロパティ, PaperSize プロパティ,

PaperWidth プロパティ, PrinterName プロパティ,

PrinterSetupDlg メソッド

CreateItem メソッド

機能

選択されているフォーマットページにアイテムを生成(挿入)します。

書式

```
Function Report.CreateItem(GroupName As String, _  
                           ItemName As String, _  
                           ItemType As Long, _  
                           Left As Long, _  
                           Top As Long, _  
                           Right As Long, _  
                           Bottom As Long ) As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

GroupName

グループ名を指定します。グループ名が無い場合は、""を指定します。

ItemType

アイテムの種類を指定します。アイテムの種類は以下の通りです。

- 1 テキスト
- 2 イメージ
- 3 バーコード
- 4 線(Line)
- 5 枠(Box)
- 6 円(Ellipse)

ItemName

アイテム名を指定します。

Left, Top, Right, Bottom

生成するアイテムの位置を指定します。指定する値は、レポートの長さの単位により異なります。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

- Left 左端位置
- Top 上端位置
- Right 右端位置
- Bottom 下端位置

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参照

DeleteItem メソッド

DeleteItem メソッド

機能

選択されているページから指定のアイテムを削除します。

書式

```
Function Report.DeleteItem(GroupName As String, _  
                             ItemName As String)As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

GroupName

グループ名を指定します。グループ名が無い場合は、""を指定します。

ItemName

アイテム名を指定します。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参照

CreateItem メソッド

DupGroup メソッド

機 能

グループリピートモードに設定されているグループの複製を有効(印刷可能)にして、次のそのグループの複製を作ります。

書 式

```
Function Report.DupGroup(GroupName As String)As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

GroupName

グループ名を指定します。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解 説

グループリピートモードに設定されたグループでは、このメソッドが呼び出されて初めて、複製されたグループのアイテムに対するプロパティ・メソッドの結果が有効となります。

参 照

RepeatGroup メソッド, CheckDupGrpBound メソッド

Item メソッド

機 能

レポート内のアイテムにアクセスするアイテム・オブジェクトを取得します。

書 式

```
Function Report.Item(GroupeName As String, _  
                    ItemName As String) As IItem
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

GroupName

グループ名を指定します。グループ名が無い場合は、""を指定します。

ItemName

アイテム名を指定します。

戻り値

関数が成功すると、アイテム・オブジェクト(IItem)が返ります。関数が失敗すると、例外エラーが発生します。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解 説

SelectedPage プロパティで設定されているレイアウトページ内のアイテムが対象となります。

取得できたアイテム・オブジェクトが有効な期間は、親のレポート・オブジェクトで別のアイテム・オブジェクトを指定するまでの間です。同時に複数のアイテム・オブジェクトをアクセスすることはできません。

参 照

ItemByGrpIdx メソッド, SelectedItem プロパティ,
SelectItem メソッド, SelectItemByGrpIdx メソッド

ItemByGrpIdx メソッド

機能

レポート内のアイテムにアクセスするアイテム・オブジェクトを取得します。グループの複製をした時に付けたインデックス(添え字)部分を変数として扱えるようになっています。

書式

```
Function Report.ItemByGrpIdx(GroupName As String, _  
                               ItemName As String, _  
                               nDigit As Long, _  
                               nIdx As Long) As Item
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

GroupName

グループ名を指定します。グループ名が無い場合は、""を指定します。

ItemName

アイテム名を指定します。

nDigit

インデックス部分を省いたグループ名に合成(付加)するインデックス部分の桁数を指定します。0を指定すると、桁数は可変となります。

nIdx

インデックス部分を省いたグループ名に合成(付加)するインデックスの値を指定します。

戻り値

関数が成功すると、アイテム・オブジェクト(Item)が返ります。関数が失敗すると、例外エラーが発生します。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解説

SelectedPage プロパティで設定されているレイアウトページ内のアイテムが対象となります。

取得できたアイテム・オブジェクトが有効な期間は、親のレポート・オブジェクトで別のアイテム・オブジェクトを指定するまでの間です。同時に複数のアイテム・オブジェクトをアクセスすることはできません。

参照

Item メソッド, SelectedItem プロパティ,
SelectItem メソッド, SelectItemByGrpIdx メソッド

OpenPrintJob メソッド

機 能

印刷ジョブを開きます (開始します)。

書 式

```
Function Report.OpenPrintJob(JobName As String, _  
                             nFlags As Long, _  
                             PreView As Long, _  
                             PreviewTitle As String, _  
                             hWndParent As Long ) As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

pJobName

印刷ジョブの名前を指定します。

prtFILE を nFlags に設定した場合、印刷データを出力するファイル名のパスを指定します。この場合、印刷されずに、指定パスのファイルへ印刷データが書き込まれます。

nFlags

以下のオプション設定を指定します。

- | | |
|----------------|--|
| prtDIALOG | (1) : Windows 標準の印刷ダイアログボックスを表示します。プレビュー画面表示の場合は、プレビュー画面の印刷ボタンを押すと、Windows 標準の印刷ダイアログボックスを表示します。 |
| prtSTRETCH | (2) : 指定用紙の大きさに納まるように、自動で元の印刷イメージを拡大縮小します。 |
| prtFILE | (4) : JobName で指定されたファイルへ印刷データを出力します。このオプションを指定した場合、他のオプションは無視され、プリンタへ出力やプレビュー画面表示は行われません。印刷データを簡易ビューアー-COREPO Viewer で表示する場合は、ファイル拡張子を、必ず、CRD にする必要があります。 |
| prtPAPERSZIE | (8) : プリンタドライバのデフォルトの用紙を使用して印刷します。 |
| prtORIENTATION | (16) : プリンタドライバのデフォルトの用紙印刷方向を使用して印刷します。 |
| prtPAPERSZIE | (32) : プリンタドライバのデフォルトの給紙方法を使用して印刷します。 |

「プレビューを表示をする」にした場合、プレビュー画面の初期状態を指定します。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| prtPREVIEW_NORMAL | (0) : デフォルトの状態です。 |
|-------------------|-------------------|

ます。

prtPREVIEW_MINIMIZED (256) : プレビュー画面を最小化して表示します。

prtPREVIEW_MAXIMIZED (512) : プレビュー画面を最大化して表示します。

PreView

True(-1)を指定すると、印刷プレビュー画面を表示します。印刷プレビュー画面は、ClosePrintJob メソッドまたは、Preview オブジェクトの ShowPreView メソッドで表示されます。

PreviewTitle

このパラメータは、PreView に True が指定された場合、有効となります。印刷プレビュー画面のタイトルを指定します。

hWndParent

親となるウィンドウのハンドルを指定します。ハンドルを指定すると、プレビュー画面が親ウィンドウ内に表示されます。親ウィンドウ内に表示させない場合は、0 を指定してください。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

ClosePrintJob メソッド , PrintReport メソッド

PrinterSetupDlg メソッド

機 能

ページ設定ダイアログ画面を開きます。

書 式

```
Function Report.PrinterSetupDlg As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解 説

用紙・プリンタの設定が変わると、各 DefaultSource プロパティ , Orientation プロパティ , PaperLength プロパティ , PaperSize プロパティ , PaperWidth プロパティ , PrinterName プロパティに変更が反映されます。

参 照

DefaultSource プロパティ , Orientation プロパティ ,
PaperLength プロパティ , PaperSize プロパティ ,
PaperWidth プロパティ , PrinterName プロパティ

PrinterSetupDlg2 メソッド

機能

プリンタ設定ダイアログ画面を開きます。

書式

```
Function Report. PrinterSetupDlg2(IpDevModeIn As Long,  
IpDevModeOut As Long ) As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

IpDevModeOut

プリンタ設定ダイアログ画面で OK ボタンがクリックされた場合、該当プリンタの DEVMODE 構造体のアドレスがセットされます。キャンセルボタンがクリックされた場合には 0 がセットされます。DEVMODE 構造体が不要になったら、Win32API の GlobalFree 関数で DEVMODE 構造体を開放する必要があります。

IpDevModeIn

プリンタ設定ダイアログ画面に表示されるプリンタ情報の初期値として使用する DEVMODE を指定します。0 (NULL) を指定した場合、デフォルトのプリンタの設定を初期値として表示します。

戻り値

関数が成功すると、IpDevModeOut に新たに設定された DEVMODE の大きさ (バイトサイズ) が返ります。関数が失敗すると、0 が返ります。

参照

SetDEVMODE メソッド

PrintReport メソッド

機 能

SelectedPageで選択されているレイアウトページを印刷します。

書 式

```
Function Report.PrintReport As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解 説

OverlayPage にページ番号が指定されている場合、そのページと SelectedPage で指定されているページを合成して印刷します。なお、印刷データファイルの印刷の場合、SelectedPage・OverlayPage の値は使用されずに、印刷データファイルの印刷データ全てが印刷されます。

参 照

SelectedPage プロパティ , OverlayPage プロパティ

RepeatGroup メソッド

機 能

グループをグループリピートモードに設定します。グループリピートモードに設定されたグループは、PrintReportメソッドで印刷されると、グループリピートモードが解除されます。リピートモードとは、RepeatGroupで指定された方向・間隔で、そのアイテムまたはグループの複製を、自動で作成する機能です。これにより、一覧表などの印刷を簡単に作ることができます。

書 式

```
Function Report.RepeatGroup( GroupName As String, bVertical As Boolean, nInterval As Long ) As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

GroupName

グループ名を指定します。

bVertical

複製を行う方向を指定します。

True : 縦下方向へ複製を作る。

False : 横右方向へ複製を作る。

nInterval

複製を作る間隔を指定します。通常は「自動的に次のアイテムを複製する」値の -1 を指定します。

レポートの長さの単位に従います。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返りません。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解 説

グループリピートモードに設定されたグループは、DupGroup メソッドが呼び出されるたびに、新しい複製が作られ、グループ内のアイテムのプロパティ・メソッドは、複製されたグループ内のアイテムに影響します。また複製されるグループ内のアイテムはオリジナルから複製されますので、直前の複製したアイテムのプロパティは引き継がれません。

参 照

SelectedPage プロパティ , OverlayPage プロパティ

SelectFirstItem メソッド

機 能

SelectedPageで選択されているページの最初に定義されているアイテムを選択します。

書 式

```
Function Report.SelectFirstItem As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解 説

選択されたアイテムへのアクセスは SelectedItem プロパティを使います。

参 照

SelectNextItem メソッド

SelectItem メソッド

機 能

アイテムを選択します。

書 式

```
Function Report.SelectItem(GroupName As String, _  
                             ItemName As String ) As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

GroupName

グループ名を指定します。グループ名が無い場合は、""を指定します。

ItemName

アイテム名を指定します。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解 説

選択されたアイテムへのアクセスは SelectedItem プロパティを使います。

参 照

Item プロパティ, ItemByGrpIdx プロパティ,
SelectedItem プロパティ, SelectItemByGrpIdx メソッド

SelectItemByGrpIdx メソッド

機 能

アイテムを選択します。グループの複製をした時に付けたインデックス(添え字)部分を変数として扱えるようになっています。

書 式

```
Function Report.SelectItemByGrpIdx(GroupeName As String, _  
                                   ItemName As String, _  
                                   nDigit As Long, _  
                                   nIdx As Long ) As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

GroupName

インデックス部分を省いたグループ名を指定します。

ItemName

アイテム名を指定します。

nDigit

インデックス部分を省いたグループ名に合成(付加)するインデックス部分の桁数を指定します。0を指定すると、桁数は可変となります。

nIdx

インデックス部分を省いたグループ名に合成(付加)するインデックスの値を指定します。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解 説

選択されたアイテムへのアクセスは SelectedItem プロパティを使います。

参 照

Item プロパティ, ItemByGrpIdx プロパティ,
SelectedItem プロパティ, SelectItem メソッド

SelectNextItem メソッド

機 能

直前のSelectFirstItemメソッドに続けて、次のアイテムを選択します。

書 式

```
Function Report.SelectFirstItem As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返りません。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解 説

選択されたアイテムへのアクセスは SelectedItem プロパティを使います。

参 照

SelectFirstItem メソッド

SetDEVMODE メソッド

機 能

指定のDEVMODE構造体データをプリンタに設定します。

書 式

```
Function Report. SetDEVMODE( lpDevMode As Long ) As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

pDevMode

DEVMODE 構造体のアドレスを指定します (DEVMODE の詳細に関しては、Windows GDI を参照してください)。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

PrinterSetupDlg2 メソッド

SetGrpVisible メソッド

機 能

指定グループ内のアイテムのVisibleプロパティを設定します。

書 式

```
Function Report. SetGrpVisible( GroupName as String ,nItemFlags As Long ) As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

GroupName

グループ名を指定します

nItemFlags

Visible プロパティを設定するグループ内のアイテムの種類を指定します。以下の値の和を指定します。グループ内全てのアイテムを対象とする場合は、-1を指定します。

- 1 : テキスト アイテムに設定する。
- 2 : イメージ アイテムに設定する。
- 4 : バーコード アイテムに設定する。
- 8 : 線 (Line) アイテムに設定する。
- 16 : 枠 (Box) アイテムの設定する。
- 32 : 円 (Ellipse) アイテムに設定する。

例) グループ内のテキスト, 線 (Line) アイテムの Visible プロパティを設定したい場合は、nItemFlags に 9 (1 + 8) を指定します。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

Item オブジェクトの Visble プロパティ

SetOffset メソッド

機 能

用紙の印字開始位置を調整します。

書 式

```
Function Report.SetOffset(LeftOffset As Double, _  
                          TopOffset As Double )As Boolean
```

Report

レポート・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

LeftOffset

左を基準にした水平方向のオフセットを指定します。単位はレポートの長さの単位に従い、ミリメートル又はインチとなります。

TopOffset

上を基準にした垂直方向のオフセットを指定します。単位はレポートの長さの単位に従い、ミリメートル又はインチとなります。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

2.2 アイテム・オブジェクトのプロパティ/メソッド

2.2.1 アイテム・オブジェクトのプロパティ

BarBackColor プロパティ

バーコード・アイテム用

機能

バーコードの背景色を取得または設定します。

構文

```
Item.BarBackColor[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

Visual Basic で色を表す長整数値 (C++の COLORREF 値)

参照

Barcode プロパティ, BarcodeRotate プロパティ, BarColor プロパティ, BarRatio プロパティ

Barcode プロパティ

バーコード・アイテム用

機能

バーコードの種類を取得または設定します。

構文

```
Item.Barcode[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

バーコードの種類は以下のとおりです。

bkJAN13	(0)	: JAN/EAN 1 3
bkJAN8	(1)	: JAN/EAN 8
bkUPCA	(2)	: UPCA
bkUPCE	(3)	: UPCE
bkITF	(4)	: ITF
bkMATRIX	(5)	: MATRIX 2 of 5
bkCODE39	(6)	: CODE39
bkCODE39FULL	(7)	: CODE39 FULL ASCII
bkCODE128	(8)	: CODE128
bkNW7	(9)	: NW7
bkIATA	(10)	: IATA
bkINDUSTRIAL	(11)	: INDUSTRIAL 2 of 5
bkCUSTOMER	(12)	: 郵便カスタマー

参照

BarBackColor プロパティ, BarcodeRotate プロパティ,
BarColor プロパティ, BarRatio プロパティ

BarcodeRotate プロパティ

バーコード・アイテム用

機能

バーコードの回転表示の角度を取得または設定します。

構文

```
Item.BarcodeRotate [=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

バーコードの回転表示の種類は以下のとおりです。

- brZERO (0) : 回転表示しません。
- br90 (1) : 左方向に 90° 回転表示します。
- br180 (2) : 左方向に 180° 回転表示します。
- br270 (3) : 左方向に 270° 回転表示します。

参照

BarBackColor プロパティ, Barcode プロパティ,
BarColor プロパティ, BarRatio プロパティ

BarColor プロパティ

バーコード・アイテム用

機 能

バーコードのバーの色を取得または設定します。

構 文

```
Item.BarColor[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

Visual Basic で色を表す長整数値 (C++の COLORREF 値)

参 照

BarBackColor プロパティ, Barcode プロパティ,
BarcodeRotate プロパティ, BarRatio プロパティ

BarRatio プロパティ

バーコード・アイテム用

機能

バーコードの細いバーと太いバーの比率を取得または設定します。

構文

```
Item.BarRatio[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

細いバーと太いバーの比率 (20 ~ 30) を指定します。20 を指定した場合、細いバーと太いバーの比率は 1 : 2 になります。25 を指定すると、細いバーと太いバーの比率は 1 : 2.5 になります。

参照

BarBackColor プロパティ, Barcode プロパティ,
BarcodeRotate プロパティ, BarColor プロパティ

BrushColor プロパティ

テキスト / 枠(Box) / 円(Ellipse) ・ アイテム用

機能

塗りつぶしの色を取得または設定します。

構文

```
Item.BrushColor[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

Visual Basic で色を表す長整数値 (C++の COLORREF 値)

参照

BrushStyle プロパティ

BrushStyle プロパティ

テキスト / 枠(Box) / 円(Ellipse) ・ アイテム用

機能

塗りつぶしの模様を取得または設定します。

構文

```
Item.BrushColor[=Long]
```


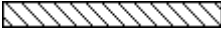



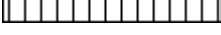


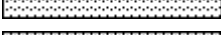

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

塗りつぶしの模様を指定します。以下の値のいずれかを指定します。

bsNONE	(0)	塗りつぶさない。
bsSOLID	(1)	塗りつぶす。
bsPATTERN1	(2)	
bsPATTERN2	(3)	
bsPATTERN3	(4)	
bsPATTERN4	(5)	
bsPATTERN5	(6)	
bsPATTERN6	(7)	
bsPATTERN7	(8)	
bsPATTERN8	(9)	
bsPATTERN9	(10)	
bsPATTERN10	(11)	

参照

BrushColor プロパティ

CapStyle プロパティ

線 (Line) アイテム用

機 能

線の端の形を取得または設定します。

構 文

```
Item.CapStyle[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

線の終端の形の値は以下の通りです。

csROUND (0) : 終端を丸くします。

csSQUARE (1) : 終端を四角にします。

csFLAT (2) : 終端を平らにします。

参 照

PenColor プロパティ , PenStyle プロパティ ,
PenWidth プロパティ , Round プロパティ

CharSpace プロパティ

テキスト・アイテム用

機能

文字の間隔を取得または設定します。

構文

```
Item.CharSpace [=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

設定する値の単位はレポートの長さの単位により異なります。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

参照

LineStyle プロパティ

Fixed プロパティ

テキスト / バーコード / イメージ・アイテム用

機能

固定項目とするか否かを設定します。

Fixed(固定項目)プロパティを True としたアイテムは、Clear/ClearAllText/ClearAllBarcode/ClearAllImage 等のメソッドで印刷(表示)データをクリアされません。

構文

```
Item.Fixed[=Boolean]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

論理型 (Boolean)

False (0) : 固定項目としない

True (-1) : 固定項目とする

FontColor プロパティ

テキスト・アイテム用

機能

フォントの色を取得または設定します。

注) バーコードのヒューマンリーダブル文字フォントの色は BarColor プロパティの値が使われます。

構文

```
Item.FontColor [=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

Visual Basic で色を表す長整数値 (C++の COLORREF 値)

参照

FontName プロパティ , FontSize プロパティ , FontStyle プロパティ

FontName プロパティ

テキスト / バーコード・アイテム用

機 能

フォント名を取得または設定します。

構 文

```
Item.FontName[=String]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

文字列型 (String)

参 照

FontColor プロパティ , FontSize プロパティ , FontStyle プロパティ

FontSize プロパティ

テキスト / バーコード・アイテム用

機能

フォントの大きさを取得または設定します。

構文

```
Item.FontSize[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

フォントサイズの単位は 1/10 ポイント単位で指定します。

参照

FontColor プロパティ, FontName プロパティ, FontStyle プロパティ

FontStyle プロパティ

テキスト / バーコード・アイテム用

機能

フォントの文字飾りを取得または設定します。

注) バーコードのヒューマンリーダブル文字フォントの文字飾りは指定できません。

構文

```
Item.FontStyle[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

フォントの文字飾りは以下の値の組み合わせで設定します。

fsBOLD (1) : 太字

fsITALIC (2) : 斜体

fsUNDERLINE (4) : 下線

参照

FontColor プロパティ, FontName プロパティ, FontSize プロパティ

GroupName プロパティ

全アイテム共通

機能

アイテムのグループ名を取得します。

構文

```
Item.GroupName[=String]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

文字列型 (String)

参照

ItemName プロパティ

Height プロパティ

全アイテム共通

機能

アイテムの高さを取得または設定します。

構文

```
Item.Height[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

高さの値は、レポートの長さの単位により異なります。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

参照

Left プロパティ , Top プロパティ , Width プロパティ

HorzAlign プロパティ

テキスト・アイテム用

機能

文字の寄せを取得または設定します。

構文

```
Item.HorzAlign[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

文字の寄せの値を指定します。

alrLEFT (0) : 左寄せ (上寄せ)

alrCENTER (1) : 中央寄せ

alrRIGHT (2) : 右寄せ (下寄せ)

alrEQUAL (3) : 均等配置

括弧内は縦書きの場合。

参照

VertAlign プロパティ

ImageStretch プロパティ

イメージ・アイテム用

機能

イメージをアイテム内に収まるように表示するか否かを取得または設定します。

構文

```
Item.ImageStretch[=Boolean]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

論理型 (Boolean)

イメージアイテムの領域に納まるようにイメージを拡大縮小するかを指定します。

False(0) : 変形しない

True(-1) : 収まるようにする

ItemName プロパティ

全アイテム共通

機能

アイテムのアイテム名を取得します。

構文

```
Item.ItemName[=String]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

文字列型 (String)

参照

GroupName プロパティ

ItemType プロパティ

全アイテム共通

機能

アイテムの種類を取得します。

構文

```
Item.ItemType[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

アイテムの種類は以下の通りです。

- 1 : テキスト
- 2 : イメージ
- 3 : バーコード
- 4 : 線(Line)
- 5 : 枠(Box)
- 6 : 円(Ellipse)

Left プロパティ

全アイテム共通

機能

アイテムの左端位置を取得または設定します。

構文

```
Item.Left[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

左端位置の値は、レポートの長さの単位により異なります。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

参照

Height プロパティ , Top プロパティ , Width プロパティ

LineSpace プロパティ

テキスト・アイテム用

機能

テキスト行の間隔を取得または設定します。

構文

```
Item.LineSpace[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

設定する値の単位はレポートの長さの単位により異なります。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

参照

CharSpace プロパティ

MultiLine プロパティ

テキスト・アイテム用

機能

テキスト行のマルチラインモードを取得または設定します。

構文

```
Item.MultiLine[=Boolean]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

論理型 (Boolean)

False(0) : マルチライン無効 (単行)

True(-1) : マルチライン有効 (複数行)

PenColor プロパティ

テキスト / 線(Line) / 枠(Box) / 円(Ellipse) アイテム用

機能

線の色を取得または設定します。

構文

```
Item.PenColor [=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

Visual Basic で色を表す長整数値 (C++の COLORREF 値)

参照

CapStyle プロパティ, PenStyle プロパティ, PenWidth プロパティ, Round プロパティ

PenStyle プロパティ

テキスト / 線(Line) / 枠(Box) / 円(Ellipse) アイテム用

機 能

線の模様を取得または設定します

構 文

```
Item.PenStyle[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

線の模様をの値は、以下のいずれかを指定します。

psSOLID	(0)	: 実線
psDASH	(1)	: 破線
psDOT	(2)	: 点線
psDASHDOT	(3)	: 一点鎖線
psDASHDOTDOT	(4)	: 二点鎖線

参 照

CapStyle プロパティ , PenColor プロパティ , PenWidth プロパティ , Round プロパティ

PenWidth プロパティ

テキスト / 線(Line) / 枠(Box) / 円(Ellipse) アイテム用

機能

線の太さを取得または設定します。

構文

```
Item.PenWidth[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

線の太さの値は 1/100 ポイント単位です。

参照

CapStyle プロパティ, PenColor プロパティ, PenStyle プロパティ,
Round プロパティ

Round プロパティ

テキスト / 枠(Box) / イメージアイテム用

機能

枠線の角の丸みを取得または設定します。

構文

```
Item.Round[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

枠線の角の丸みの値の単位はレポートの長さの単位により異なります。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は 1/1000 インチを基本単位とします。

参照

CapStyle プロパティ, PenColor プロパティ, PenStyle プロパティ,
PenWidth プロパティ

Text プロパティ

テキスト / バーコード・アイテム用

機能

テキスト（文字列）を取得または設定します。

構文

```
Item.Text[=String]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

文字列型 (String)

テキスト・アイテムの場合、印字（表示）する文字列を指定します。バーコード・アイテムの場合、印字（表示）するコードの文字列を指定します。

参照

SetDoubleToStr メソッド, SetIntToStr メソッド, SetUIntToStr メソッド

TextEscapement プロパティ

テキスト・アイテム用

機能

テキストの縦書き・横書きを取得または設定します。

構文

```
Item.TextEscapement [=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

テキストの縦書き・横書きの値は、以下の通りです。

teHORIZONTAL (0) : 横書き

teVERTICAL (1) : 縦書き

Top プロパティ

全アイテム共通

機 能

アイテムの上端位置を取得または設定します。

構 文

```
Item.Top[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

上端位置の値は、レポートの長さの単位により異なります。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

参 照

Height プロパティ , Left プロパティ , Width プロパティ

VertAlign プロパティ

テキスト・アイテム用

機能

テキスト行の寄せを取得または設定します。

構文

```
Item.VertAlign[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

テキスト行の寄せの値を指定します。

atbTOP (0) : 上寄せ (右寄せ)

atbCENTER (1) : 中央寄せ

atbBOTTOM (2) : 下寄せ (左寄せ)

atbEQUAL (3) : 均等配置

括弧内は縦書きの場合。

参照

HorzAlign プロパティ

Visible プロパティ

全アイテム共通

機能

アイテムの印刷（表示）の有無を取得または設定します。

構文

```
Item.Visible[=Boolean]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

論理型 (Boolean)

False (0) : 印刷（表示）しない

True (-1) : 印刷（表示）する

Width プロパティ

全アイテム共通

機能

アイテムの幅を取得または設定します。

構文

```
Item.Width[=Long]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

幅の値は、レポートの長さの単位により異なります。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

参照

Height プロパティ , Left プロパティ , Top プロパティ

Wordwrap プロパティ

テキスト・アイテム用

機能

テキストの折り返しの有無を取得または設定します。

構文

```
Item. Wordwrap [=Boolean]
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

論理型 (Boolean)

False(0) : テキストを折り返さない。

True(-1) : テキストを折り返す。

2.2.2 アイテム・オブジェクトのメソッド

Bound メソッド

全アイテム共通

機能

アイテムの位置・大きさの情報を取得します。また、そのアイテムが、レポートの印刷可能範囲にあるか否かの確認をします。アイテムリポートモードでは、複製したアイテムが印刷可能範囲にあるか否かの確認に使用できます。

書式

```
Function Item. Bound( nLeft As Long, nTop As Long, nWidth As Long,  
nHeight As Long ) As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

Left

次に作成されるグループの左位置を取得します。なお、線アイテムの場合、線の始端横（x軸）方向の位置を取得します。

nTop

次に作成されるグループの上位置を取得します。なお、線アイテムの場合、線の始端縦（y軸）方向の位置を取得します。

nWidth

次に作成されるグループの幅を取得します。なお、線アイテムの場合、線の終端横（x軸）方向の位置を取得します。

nHeight

次に作成されるグループの高さを取得します。なお、線アイテムの場合、線の終端縦（y軸）方向の位置を取得します。

大きさの単位は、レポートの長さの単位に従います。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参照

Left プロパティ, Top プロパティ, Width プロパティ, Height プロパティ

CheckDupBound メソッド

全アイテム共通

機能

アイテムリピートモードに設定されているアイテムに対して、次に複製されるそのアイテムが、レポートの印刷可能範囲に作成できるか否かの確認をします。

書式

```
Function Item. CheckDupBound( nLeft As Long, nTop As Long, nWidth  
As Long, nHeight As Long ) As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

nLeft

次に作成されるグループの左位置を取得します。なお、線アイテムの場合、線の始端横（x 軸）方向の位置を取得します。

nTop

次に作成されるグループの上位置を取得します。なお、線アイテムの場合、線の始端縦（y 軸）方向の位置を取得します。

nWidth

次に作成されるグループの幅を取得します。なお、線アイテムの場合、線の終端横（x 軸）方向の位置を取得します。

nHeight

次に作成されるグループの高さを取得します。なお、線アイテムの場合、線の終端縦（y 軸）方向の位置を取得します。

大きさの単位は、レポートの長さの単位に従います。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。取得したエラーコードがエラー番号 5 の場合、次に複製されるアイテムがレポートの印刷範囲内に作成できないことを意味します。この場合、パラメータには、印刷可能範囲が戻されます。

参照

Repeat メソッド, DupBoxLine メソッド

Clear メソッド

テキスト / バーコード / イメージ・アイテム用

機 能

アイテムの印刷(表示)データをクリアします。

書 式

```
Function Item.Clear As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返りません。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

レポート・オブジェクトの ClearAllBarcode メソッド ,
レポート・オブジェクトの ClearAllImage メソッド ,
レポート・オブジェクトの ClearAllText メソッド

DupBoxLine メソッド

線(Line) / 枠(Box) / 円(Ellipse) ・ アイテム用

機 能

アイテムリピートモードに設定された線・枠(Box・Line)アイテムの複製をRepeatメソッドで指定された方向、間隔で作成します。アイテムは、Repeatメソッドでリピートモードに設定されている必要があります。

書 式

```
Function Item. DupBoxLine As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

Repeat メソッド, DupBoxLine メソッド, CheckDupBound メソッド

GetTextMetrics メソッド

テキスト・アイテム用

機能

テキスト・アイテムの印刷する文字列の高さ・幅を取得します。

書式

```
Function Item. GetTextMetrics( dbWidth As Double, dbHeight As  
Double ) As Long
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

dbWidth

文字列の幅がセットされます。長さの単位は、レポートの長さの単位に従い、ミリメートル/インチとなります。文字列の幅は、指定した文字間隔が含まれたものが返ります。

dbHeight

文字列の高さがセットされます。長さの単位は、レポートの長さの単位に従い、ミリメートル/インチとなります。指定した行の間隔は含まれません。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

Rename メソッド

全アイテム共通

機能

アイテムのグループ名及び名前を変えます。

書式

```
Function Item.Rename(GroupName As String, _  
                    ItemName As String ) As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

GroupName

変更後のグループ名を指定します。グループ名が無い場合は、""を指定します。

ItemName

変更後のアイテム名を指定します。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

Repeat メソッド

全アイテム共通

機能

アイテムをアイテムリピートモードに設定します。
アイテムリピートモードに設定されたアイテムは、レポートオブジェクトのPrintReportメソッドで印刷されると、リピートモードが解除されます。アイテムリピートモードとは、Repeatメソッドで指定された方向・間隔で、そのアイテムの複製を、自動で作成する機能です。これにより、一覧表などの印刷を簡単に作ることができます。

書式

```
Function Item. Repeat( bVertical As Boolean, _  
                      nInterval As Long) As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

bVertical

複製を行う方向を指定します。

True : 縦下方向へ複製を作る。

False : 横右方向へ複製を作る。

nInterval

複製を作る間隔を指定します。通常は「自動的に次のアイテムを複製する」値の -1 を指定します。

レポートの長さの単位に従います。単位がミリメートルの場合、1/100 ミリメートルを基本単位とします。インチの場合は、1/1000 インチを基本単位とします。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

解説

アイテムが複製されるタイミング

テキスト・バーコードアイテムの場合、テキスト（またはバーコードのコード）がアイテムに設定されると、現在のアイテムが印刷できるようになり、次の複製が作られます。

イメージアイテムの場合、イメージがアイテムに設定されると、現在のアイテムが印刷できるようになり、次の複製が作られます。

線・枠・円 (Line/Box/Ellipse) アイテムの場合、DupBoxLine メソッドが呼び出さ

れると、現在のアイテムが印刷できるようになり、次の複製が作られます。

参 照

DupBoxLine メソッド, CheckDupBound メソッド

SetDIBits メソッド

イメージ・アイテム用

機能

アイテムのグループ名及び名前を変えます。

書式

```
Function Item. SetDIBits( BitMapInfo As Long,  
                          BitsData As Long ) As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

BitMapInfo

DIB の情報を保持している BITMAPINFO 構造体のアドレスを指定します。

BitsData

DIB の色データを保持しているバイト配列のアドレスを指定します。ビットマップ値の形式は、BitMapInfo パラメータが指す BITMAPINFO 構造体の biBitCount メンバに依存します。なお、NULL (0) が指定された場合、パック済み DIB が指定されたものとみなして、処理が行われます。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参照

SetImagePath メソッド

SetImageDIB メソッド

SetDPI メソッド

イメージ・アイテム用

機能

イメージの解像度(DPI)を設定します。

書式

```
Function Item. SetDPI( nDpi As Long ) As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

nDpi

イメージの解像度を指定します。イメージアイテムのストレッチが False の場合に有効で、印刷時に解像度に従って適正な大きさにイメージを補正して出力します。0 を指定した場合は、出力するプリンタの解像度で印刷します。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返りません。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参照

SetImagePath メソッド

SetImageDIB メソッド

SetDoubleToStr メソッド

テキスト / バーコード・アイテム用

機能

DOUBLE 型の数値を指定の形式に変換して、テキスト・アイテムに設定します。

書式

```
Function Item.SetDoubleToStr(HeadStr As String, _  
                               TailStr As String, _  
                               dbVal As Double, _  
                               nDecimal As Long, _  
                               nFlags As Long )As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

HeadStr

変換した数値文字列の前に文字列を付けたい場合、その付け加える文字列を指定します。付け加えない場合は空文字列""を指定します。

TailStr

変換した数値文字列の後ろに文字列を付けたい場合、その付け加える文字列を指定します。付け加えない場合は空文字列""を指定します。

dbVal

数値文字列に変換する数値を指定します。

nDecimal

少数点以下の桁数を指定します。

nFlags

少数点以下の有効桁数の丸め方法、数字の変換方法と編集形式を指定します。指定方法は以下の通りです。

有効桁数の丸め方法、以下のいずれかを指定します。

edtDB_ROUNDOFF (256) : 四捨五入で有効桁数を丸めます。

edtDB_CUT (512) : 切り捨てで有効桁数を丸めます。

edtDB_RAIZE (1024) : 切り上げで有効桁数を丸めます。

数字の変換方法 以下のいずれかを指定します。

edtHAN (0) : 半角数字文字列に変換します。

edtZEN (1) : 全角数字文字列に変換します。

edtKNJ1 (2) : 漢数字多角文字に変換します。
(壹, 弍, 参, 四..., 拾...)

edtKNJ2 (3) : 漢数字多角文字に変換します。
(壹, 弍, 参, 四..., 十...)

edtKNJ3 (4) : 漢数字に変換します。
(一, 二, 三, 四..., 十...)

edtKNJ4 (5) : 漢数字に変換します。千・万などの位をあらわす漢数字は付きません。

(〇 , 一 , 二 , 三 , 四 ... , 九)

上記の値と、以下の値の組合せで、数値の編集形式を指定します。

edtCOMMA (16) : カンマ編集します。(漢数字の場合は無効となります)

edtZERO2SPC (32) : 設定する値が 0 の場合、0 の代わりに空白文字をセットします。

edtSIGNTAIL (64) : 符号を後ろにつけます。

edtSIGNJPN (128) : マイナス符号を に変換します。

戻り値

関数が成功すると、変換した文字列の長さが返ります。関数が失敗すると、-1 が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

Text プロパティ , SetIntToStr メソッド , SetUIntToStr メソッド

SetForeground メソッド

全アイテム共通

機 能

アイテムを前面・背面に移動させます。

書 式

```
Function Item.SetForeground(bFore As Boolean) As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

bFore

False (0) : 背面に移動させます。

True (-1) : 前面に移動させます。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

Set ImageDIB メソッド

メッセージ・アイテム用

機能

イメージをイメージ・アイテムにコピーします。

書式

```
Function Item.Set ImageDIB(hDc As Long, _  
                                nXOriginSrc As Long, _  
                                nYOriginSrc As Long, _  
                                nWidthSrc As Long, _  
                                nHeightSrc As Long )As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

hDc

コピー元のデバイスコンテキストのハンドルを指定します。

XOriginSrc

コピー元の X 座標を指定します。

YOriginSrc

コピー元の Y 座標を指定します。

nWidth

コピー元の幅を指定します。

nHeight

コピー元の高さを指定します。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参照

Set ImagePath メソッド

Set ImagePath メソッド

メージ・アイテム用

機 能

指定のイメージファイルからイメージを読み込みます。

書 式

```
Function Item.SetImagePath(FilePath As String )As Boolean
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

FilePath

イメージファイル (TIFF/JPEG/BMP) へのパスを指定します。

http 転送でイメージファイルを開く場合は、イメージファイルへの URL を指定します。

ftp 転送でイメージファイルを開く場合は、以下に示す形式でイメージファイルへのパスを指定します。

ftp 転送の記述形式

```
ftp://(ftpサーバー名、又はIPアドレス)/(イメージファイルへのパス)
```

と記述します。

例) ftp サーバー ftp.com-ware.jp で ./Sample/Test.jpg を開く場合。

```
ftp://ftp.com-ware.jp/Sample/Test.jpg
```

となります。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

Set ImageDIB メソッド

SetIntToStr メソッド

テキスト / バーコード・アイテム用

機 能

LONG 型の数値を指定の形式に変換して、テキスト・アイテムに設定します。

書 式

```
Function Item.SetIntToStr(HeadStr As String, _  
                          TailStr As String, _  
                          nVal As Long, _  
                          nFlags As Long ) As Long
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

HeadStr

変換した数値文字列の前に文字列を付けたい場合、その付け加える文字列を指定します。付け加えない場合は空文字列""を指定します。

TailStr

変換した数値文字列の後ろに文字列を付けたい場合、その付け加える文字列を指定します。付け加えない場合は空文字列""を指定します。

nVal

数値文字列に変換する数値を指定します。

nFlags

数字の変換方法と編集形式を指定します。指定方法は以下の通りです。

数字の変換方法 以下のいずれかを指定します。

edtHAN (0) : 半角数字文字列に変換します。

edtZEN (1) : 全角数字文字列に変換します

edtKNJ1 (2) : 漢数字多角文字に変換します。
(壹, 弍, 参, 四..., 拾...)

edtKNJ2 (3) : 漢数字多角文字に変換します。
(壹, 弍, 参, 四..., 十...)

edtKNJ3 (4) : 漢数字に変換します。
(一, 二, 三, 四..., 十...)

edtKNJ4 (5) : 漢数字に変換します。千・万などの位をあらわす漢数字は付きません。
(〇, 一, 二, 三, 四..., 九)

上記の値と、以下の値の組合せで、数値の編集形式を指定します。

edtCOMMA (16) : カンマ編集します。(漢数字の場合は無効となります)

edtZERO2SPC (32) : 設定する値が 0 の場合、0 の代わりに空白文字をセットします。

edtSIGNTAIL (64) : 符号を後ろにつけます。

edtSIGNJPN (128) : マイナス符号を に変換します。

戻り値

関数が成功すると、変換した文字列の長さが返ります。関数が失敗すると、-1 が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

Text プロパティ , SetDoubleToStr メソッド , SetUIntToStr メソッド

SetUIntToStr メソッド

テキスト / バーコード・アイテム用

機能

LONG 型の数値を符号無し数値として、指定の形式に変換して、テキスト・アイテムに設定します。

書式

```
Function Item.USetIntToStr(HeadStr As String, _  
                             TailStr As String, _  
                             nVal As Long, _  
                             nFlags As Long ) As Long
```

Item

アイテム・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

HeadStr

変換した数値文字列の前に文字列を付けたい場合、その付け加える文字列を指定します。付け加えない場合は空文字列""を指定します。

TailStr

変換した数値文字列の後ろに文字列を付けたい場合、その付け加える文字列を指定します。付け加えない場合は空文字列""を指定します。

nVal

数値文字列に変換する数値を指定します。

nFlags

数字の変換方法と編集形式を指定します。指定方法は以下の通りです。

数字の変換方法 以下のいずれかを指定します。

edtHAN (0) : 半角数字文字列に変換します。

edtZEN (1) : 全角数字文字列に変換します。

edtKNJ1 (2) : 漢数字多角文字に変換します。
(壹, 弍, 参, 四..., 拾...)

edtKNJ2 (3) : 漢数字多角文字に変換します。
(壹, 弍, 参, 四..., 十...)

edtKNJ3 (4) : 漢数字に変換します。
(一, 二, 三, 四..., 十...)

edtKNJ4 (5) : 漢数字に変換します。千・万などの位をあらわす漢数字は付きません。
(〇, 一, 二, 三, 四..., 九)

上記の値と、以下の値の組合せで、数値の編集形式を指定します。

edtCOMMA (16) : カンマ編集します。(漢数字の場合は無効となります)

edtZERO2SPC (32) : 設定する値が0の場合、0の代わりに空白文字をセットします。

edtSIGNTAIL (64) : 符号を後ろにつけます。

edtSIGNJPN (128) : マイナス符号を に変換します。

戻り値

関数が成功すると、変換した文字列の長さが返ります。関数が失敗すると、-1 が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

Text プロパティ , SetDoubleToStr メソッド , SetIntToStr メソッド

2.3 プレビュー・オブジェクトのプロパティ/メソッド

2.3.1 プレビュー・オブジェクトのプロパティ

CloseButton プロパティ

機能

閉じるボタンの有効 / 無効を取得または設定します。

構文

```
preview.CloseButton[=Boolean]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

論理型 (Boolean)

True(-1) : 閉じるボタンを有効にします。

False(0) : 閉じるボタンを無効にします。

参照

PrintButton プロパティ , StatusBar プロパティ , ToolBar プロパティ

Height プロパティ

機 能

プレビュー画面の高さを取得または設定します。

構 文

```
preview.Height [=Long]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

参 照

Left プロパティ , Top プロパティ , Width プロパティ , SetBounds メソッド

hWnd プロパティ

機 能

プレビュー画面のハンドル (HWND) を取得します。

構 文

```
preview.hWnd[=Long]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

Left プロパティ

機 能

プレビュー画面の左端位置を取得または設定します。

構 文

```
preview.Left [=Long]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

参 照

Height プロパティ, Top プロパティ, Width プロパティ,
SetBounds メソッド

MaxPage プロパティ

機 能

総ページ数を取得します。

構 文

```
preview.MaxPage[=Long]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

参 照

Page プロパティ

Page プロパティ

機 能

現在表示されているページ番号を取得または設定します。

構 文

```
preview.Page[=Long]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

参 照

MaxPage プロパティ

PrintButton プロパティ

機 能

印刷ボタンの有効 / 無効を取得または設定します。

構 文

```
preview.PrintButton[=Boolean]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

論理型 (Boolean)

True(-1) : 印刷ボタンを有効にします。

False(0) : 印刷ボタンを無効にします。

参 照

CloseButton プロパティ , StatusBar プロパティ , ToolBar プロパティ

Status プロパティ

機 能

プレビュー画面が開いているか、閉じているかの状態を取得します。

構 文

```
preview.Status[=Boolean]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

論理型 (Boolean)

True (-1) : プレビュー画面が開いています。

False (0) : プレビュー画面が閉じています。

参 照

HidePreview メソッド , ShowPreview メソッド

StatusBar プロパティ

機 能

ステータスバーを表示するか否かを取得または設定します。

構 文

```
preview.StatusBar[=Boolean]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

論理型 (Boolean)

True (-1) : ステータスバーを表示します。

False (0) : ステータスバーを非表示にします。

参 照

ToolBar プロパティ

ToolBar プロパティ

機 能

ツールバーを表示するか否かを取得または設定します。

構 文

```
preview.ToolBar [=Boolean]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

論理型 (Boolean)

True(-1) ツールバーを表示します。

False(0) ツールバーを非表示にします。

参 照

StatusBar プロパティ

Top プロパティ

機 能

プレビュー画面の上端位置を取得または設定します。

構 文

```
preview.Top[=Long]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

参 照

Height プロパティ, Left プロパティ, Width プロパティ,
SetBounds メソッド

ViewScale プロパティ

機 能

プレビュー画面の表示倍率を取得または設定します。

構 文

```
preview.ViewScale[=Long]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

指定できる倍率の範囲は 30 から 200 の間です。30 は 30%、200 は 200% を意味します。

Width プロパティ

機 能

プレビュー画面の幅を取得または設定します。

構 文

```
preview.Width[=Long]
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

データ型

長整数型 (Long)

参 照

Height プロパティ , Left プロパティ , Top プロパティ ,
SetBounds メソッド

2.3.2 プレビュー・オブジェクトのメソッド

DoPrint メソッド

機能

プレビュー画面の印刷ボタン同様に印刷処理を行います。

書式

```
Function preview.DoPrint As Boolean
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

HidePreview メソッド

機 能

プレビュー画面を閉じます。

書 式

```
Function preview.HidePreview As Boolean
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返りません。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

ShowPreview メソッド

SetBounds メソッド

機 能

プレビュー画面の位置・サイズを設定します。

書 式

```
Function preview.SetBounds(nLeft As Long, _  
                             nTop As Long, _  
                             nWidth As Long, _  
                             nHeight As Long) As Boolean
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

nLeft

プレビュー画面の左位置を指定します。

nTop

プレビュー画面の上位置を指定します。

nWidth

プレビュー画面の幅を指定します。

nHeight

プレビュー画面の高さを指定します。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

Height プロパティ , Left プロパティ , Top プロパティ , Width プロパティ

ShowPreview メソッド

機 能

プレビュー画面を開きます。印刷ジョブ途中でも呼び出すことが可能です。OpenPrintJobメソッドで「プレビューする」に設定されている必要があります。

書 式

```
Function preview.ShowPreview(bMODE As Boolean )As Boolean
```

preview

プレビュー・オブジェクトへの参照を表すオブジェクト式です。

bMODE

True (-1) : プレビュー画面を開いたまま、呼び出し元に戻ります。

False (0) : プレビュー画面が閉じるまで、呼び出し元に戻りません。

戻り値

関数が成功すると、True(-1)が返ります。関数が失敗すると、False(0)が返ります。ErrorCode プロパティでエラーコードを取得します。

参 照

HidePreview メソッド

第 3 章

プログラミング・ガイド

この章は、コレポ ActiveX 版 印刷エンジンのプログラミングの例を紹介します。

3.1 レポートアクセス・セッションの開始と終了

ポートアクセス・セッションはレポートファイルのパス設定(ReportPath プロパティにパスを設定)で始まり、別のレポートパスが設定されるか、パスをクリアするまで、そのセッションが続きます。レポートファイルのパス設定は、レポートデータを印刷エンジン内部に読み込み、レポートへのアクセス準備をします。

サンプル

VB

```
' レポートを開く
Report1.ReportPath = "C:¥GrpList.crp"
.
.
.

' レポートを閉じる
Report1.ReportPath = ""

'http サーバー上のレポートを開く
Report1.ReportPath = _
    "http://www.com-ware.jp/Report/GrpList.crp"
' レポート印刷エンジンを閉じる
If cwCloseEngine()=0 then
    ' エラー処理を記述します
Exit Sub
End If
```

3.2 印刷ジョブ・セッションの開始と終了

印刷ジョブ・セッションは、印刷ジョブのオープン (OpenPrintJob メソッド) で始まり、印刷ジョブのクローズ (ClosePrintJob メソッド) で終わります。印刷ジョブのオープン (OpenPrintJob) は、レポートの印刷準備をします。印刷ジョブのクローズ (ClosePrintJob) はレポート印刷の終了処理を行います。

サンプル

VB

```
'印刷 JOB の開始 プレビューを表示する。印刷設定ダイアログを表示
する
If Report1.OpenPrintJob("プレビューサンプル JOB", _
                        prtDIALOG +prtPREVIEW_MAXIMIZEDL, _
                        True, _
                        "プレビューサンプル画面", _
                        0 ) = False then
    'エラー処理を記述します
Exit Sub
End If
    .
    .
    .
'印刷ジョブの終了 (プレビューが表示される)
If Report1.ClosePrintJob(True) = False then
    'エラー処理を記述します
Exit Sub
End If
```

3.3 印刷データのファイル出力

印刷データのファイル出力は、印刷ジョブのオープン (OpenPrintJob) でファイルへの出力を指定します。通常の印刷ジョブ同様、印刷ジョブのオープン (OpenPrintJob) で始まり、印刷ジョブのクローズ (ClosePrintJob) で終わります。印刷ジョブのオープン (OpenPrintJob) は、レポートのファイル出力準備をします。印刷ジョブのクローズ (ClosePrintJob) はレポートのファイル出力の終了処理を行います。また、PrintReport メソッドで印刷データがファイルに出力されます。

サンプル

VB

```
'印刷 JOB の開始 c:¥PRINTFILE¥Smpl.crd に印刷データを出力
If Report1.OpenPrintJob( "c:¥PRINTFILE¥Smpl.crd", prtFILE,
False,"", 0 ) = False then

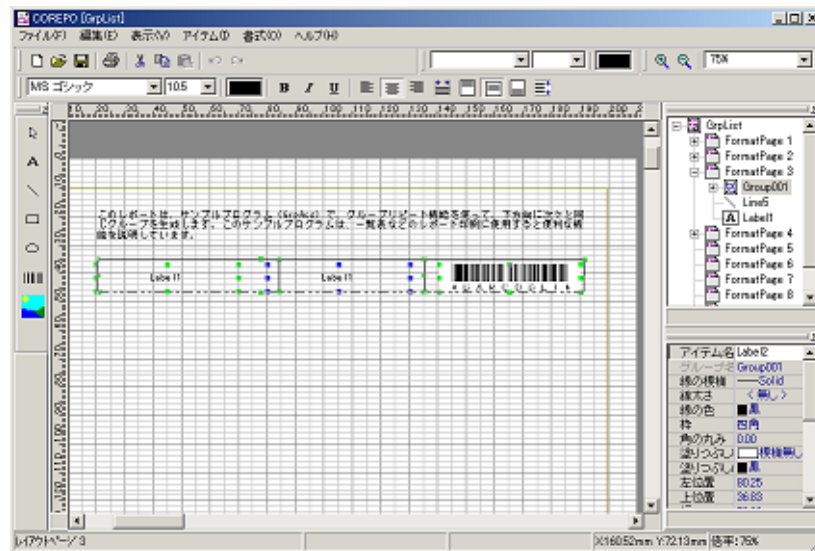
'エラー処理を記述します
Exit Sub
End If
.
.
.

'レポートを印刷 (オーバーレイ無し、レイアウトページ 1 ページ目)
if Report1.PrintReport(0,-1) = Flase then
'エラー処理を記述します
Exit Sub
End If
.
.
.

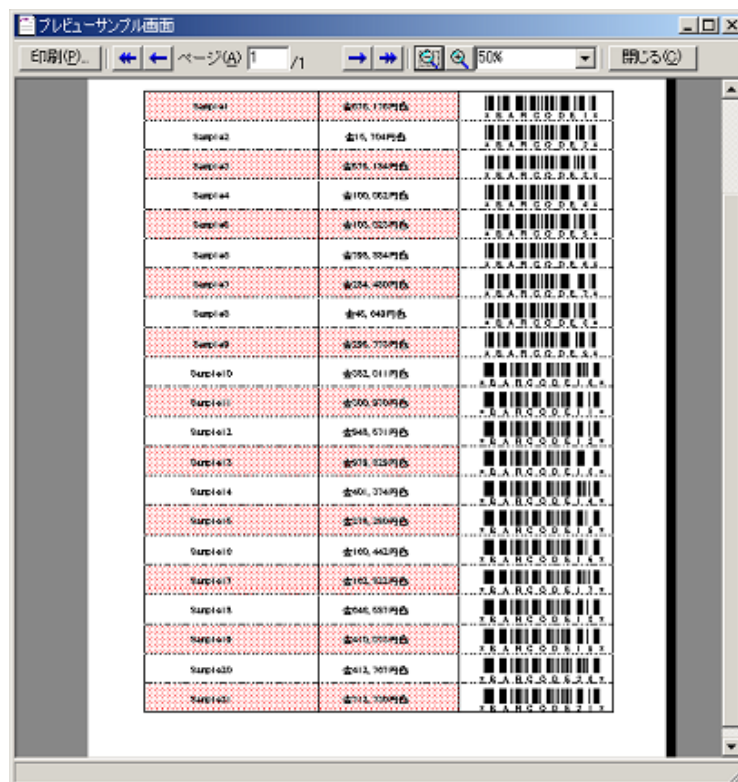
'印刷ジョブの終了(印刷ファイルを閉じる)
if Report1.ClosePrintJob( True ) = False then
'エラー処理を記述します
Exit Sub
End If
```


3.4 リポートモードでの印刷

リピート機能を使うことにより、一覧印刷などが、簡単に実現できます。たとえば、レポートでは以下のように繰り返（リピート）したいアイテムの集まりを1のグループにします。



プログラムで、リピート機能を使い、グループを下方向に繰り返し生成して、一覧印刷帳票を作成します。



リピート機能を使うためには、印刷したいレポートのアイテムまたはグループを

cwStartRepeat 関数でリピートモードに設定します。cwStartRepeat 関数で設定できるリピートモードには、アイテムリピートモードとグループリピートモードの2種類があります。

アイテムリピートモードは、Repeat メソッドでアイテム名を指定した場合に適用されるモードです。

テキストまたはバーコードアイテムがアイテムリピートモードに設定されている場合、アイテムにテキストが設定 (Text/SetIntToStr/SetDoubleToStr など) されると、自動的に複製が生成されます。再びアイテムにテキストを設定すると、複製したアイテムにテキストが設定され、また新たなアイテムの複製が生成されます。但し、生成されたアイテムにテキストが設定されない限り、印刷されません。

イメージアイテムがアイテムリピートモードに設定されている場合、アイテムにイメージが設定 (SetImagePath/SetImageDIB/SetDIBits など) されると、自動的に複製が生成されます。再びアイテムにイメージを設定すると、複製したアイテムにイメージが設定され、また新たなアイテムの複製が生成されます。但し、生成されたアイテムにイメージが設定されない限り、印刷されません。

線・枠 (Line/Box) アイテムがアイテムリピートモードに設定されている場合、DupBoxLine メソッドを呼び出すことで、自動的に複製が生成されます。再び DupBoxLine を呼び出すと、複製したアイテムが有効となり、また新たなアイテムの複製が生成されます。但し、生成されたアイテムに対しての DupBoxLine 関数呼び出しが、されない限り、印刷されません。

以下にアイテムリピートモードの使い方を示します。

Repeat メソッドでアイテムをアイテムリピートモードに設定します。

アイテムのプロパティ・メソッド (SetImagePath/cwSetImageDIB/cwSetDIBits は省きます) で、アイテムの大きさ・フォント・色・塗りつぶし・線の種類など目的の物にします。

アイテムを複製します。

テキスト・バーコードアイテムはテキストを設定するプロパティ・メソッド (Text/SetIntToStr/SetDoubleToStr など) を呼び出すことで、複製が行われます。

線・枠・円 (Line/Box/Ellipse) アイテムでは、DupBoxLine メソッドを呼び出すことで、複製が行われます。

イメージアイテムはイメージを設定するメソッド (SetImagePath/SetImageDIB/SetDIBits など) を呼び出すことで、複製が行われます。

上記 から を繰り返すことで、簡単に、アイテムの複製を指定方向に指定間隔で作成できます。なお、繰り返しの結果印刷領域を越えたか否かの確認は、Bound

メソッドまたは CheckDupBound メソッドで行います。Bound メソッドは複製したアイテムが印刷範囲内にあるか否かを確認します。CheckDupBound メソッドは、次に複製されるアイテムが印刷範囲内に作成できるか否かを確認します。

グループリピートモードは、cwStartRepeat 関数でグループ名を指定し、アイテム名を NULL または "" で指定した場合に適用されるモードです。

グループがグループリピートモードに設定されている場合、DupGroup メソッドを呼び出すことで、自動的に複製が作られます。再び DupGroup メソッドを呼び出すと、複製したグループが有効となり、また新たなグループの複製が作られます。但し、生成されたグループに対して DupGroup メソッドが呼び出されない限り、生成されたグループは印刷されません。

以下にグループリピートモードの使い方を示します。

RepeatGroup メソッドでグループをグループリピートモードに設定します。

アイテムプロパティ操作関数で、グループのアイテムのテキスト・大きさ・フォント・色・塗りつぶし・線の種類など目的の物にします。

DupGroup メソッドを呼び出して、 で行ったアイテムへの変更を確定して、グループを複製します。

上記 から を繰り返すことで、簡単に、グループの複製を指定方向に指定間隔で作成できます。なお、繰り返しの結果、印刷領域を越えるか否かの確認は、CheckDupGrpBound メソッドで行います。CheckDupGrpBound メソッドは、次に複製されるグループが印刷範囲内に作成できるか否かを確認します。

『サンプルにつきましては、ActiveX サンプルの該当言語の GrpAcs フォルダのソースプログラムを参考にしてください。』

3.5 印刷データファイルの印刷

印刷データファイルの印刷は、印刷データファイルのパス設定 (PrtFilePath) で始まり、ReportPath または PrtFilePath プロパティで別のレポートパスが設定されるか、パスをクリアするまで、そのセッションが続きます。印刷データファイルのパス設定 (PrtFilePath) は、印刷データファイルを印刷エンジン内部に読み込み、印刷データの印刷準備をします。

サンプル

VB

```
'印刷データファイルを開く (読み込む)
Report1.PrtFilePath = "C:¥GrpList.crd"

'印刷 JOB の開始 プレビューを表示する。印刷設定ダイアログを表示する
If Report1.OpenPrintJob( "プレビューサンプル JOB", _
                        prtDIALOG + prtPREVIEW_MAXIMIZEDL, _
                        True,"プレビューサンプル画面", 0 ) = False then
    'エラー処理を記述します
    Exit Sub
End If

'印刷データファイルを印刷 (引数のページ, レイアウトページ番号は意味を
持ちません)
if Report1.PrintReport(0,-1) = Flase then
    'エラー処理を記述します
    Exit Sub
End If

'印刷ジョブの終了 (プレビューが表示される)
if Report1.ClosePrintJob( True ) = False then
    'エラー処理を記述します
    Exit Sub
End If

'印刷データファイルを閉じる
Report1.PrtFilePath = ""

'http サーバー上の印刷データファイルを開く
Report1.PrtFilePath=http://www.com-ware.jp/Report/GrpList.crd"
```

3.6 エラーコードの取得

エラーが発生したとき、エラーコードを取得するには、ErrorCode プロパティを参照します。また、プロパティ等の設定のエラーは、例外処理で行います。

サンプル

VB

```
On Error GoTo Err_Root
'レポート印刷エンジンを開く
Report1.ReportPath ="C:¥GrpList.crp"
.
.
nRetv =Report1.OpenPrintJob(_
    "プレビューサンプル",_
    CW_PRTFLG_DIALOG +CW_PREVIEW_NORMAL,_
    True,_
    "プレビューサンプル画面",_
    0)
If nRetv =0 Then
    MsgBox "Error 発生 Error Code =" +Str(Report1.ErrorCode)
'レポートを閉じる
Report1.ReportPath =" "
Exit Sub
End If
.
.
.
Err_Root:
'プロパティなどのエラーは、ここで処理
Dim str As String
str =Err.Source + "でエラーが発生しました。" _
    + Chr$(13) + Err.Description
MsgBox str,vbExclamation
Exit Sub
End Sub
```

3.7 用紙やプリンタの設定

用紙やプリンタの設定をするには、大きく分けて、2通りの方法があります。1つは、印刷時に印刷ダイアログ画面を表示して、用紙やプリンタの設定を行う方法です。もう1つは、アプリケーションで用紙やプリンタの設定ダイアログ画面を表示し、用紙やプリンタの設定内容を内部に保存して、印刷時、レポート印刷エンジンに直接指定する方法です。

3.7.1 印刷時に印刷ダイアログ画面を表示して、用紙やプリンタの設定を行う

印刷時に印刷ダイアログ画面を表示して、用紙やプリンタの設定を行うには、OpenPrintJob メソッドの引数に prtDIALOG を指定します。詳しくは、OpenPrintJob メソッドの説明を参照してください。

3.7.2 印刷時、レポート印刷エンジンに直接指定する

アプリケーションで用紙やプリンタの設定ダイアログ画面を表示

アプリケーションで用紙やプリンタの設定ダイアログ画面を表示するには、PrinterSetupDlg メソッドを呼び出します。詳しくは、PrinterSetupDlg メソッドの説明を参照してください。

印刷時、レポート印刷エンジンに直接指定する

印刷時、レポート印刷エンジンに直接指定するには、DefaultSource プロパティ、Orientation プロパティ、PaperLength プロパティ、PaperSize プロパティ、PaperWidth プロパティ、PrinterName プロパティに直接値を代入します。詳しくは、各プロパティの説明を参照してください。

サンプル

VB

```
Dim nSvOrientation As Long
Dim nSvPaperSize As Long
Dim nSvPaperLength As Long
Dim nSvPaperWidth As Long
Dim nSvDefaultSource As Long
Dim sSvPrinterName As String
.
.
.
' レポートを開く
Report1.ReportPath "Sample.crp"
```

```

'ページ設定ダイアログを開く
Call Report1.PrinterSetupDlg

'設定を変数に保存
nSvOrientation =Report1.Orientation
nSvPaperSize =Report1.PaperSize
nSvPaperLength =Report1.PaperLength
nSvPaperWidth =Report1.PaperWidth

nSvDefaultSource =Report1.DefaultSource
sSvPrinterName =Report1.PrinterName

'レポートを閉じる
Report1.ReportPath =""
Exit Sub
.
.
.
'レポートを開く
Report1.ReportPath ="Sapmle.crp"

'用紙・プリンタを設定
Report1.Orientation =nSvOrientation
Report1.PaperSize =nSvPaperSize
Report1.PaperLength =nSvPaperLength
Report1.PaperWidth =nSvPaperWidth
Report1.DefaultSource =nSvDefaultSource
Report1.PrinterName =sSvPrinterName

'印刷ジョブ開始
if Report1.OpenPrintJob("サンプル JOB" _
,0,false,"",NULL ) = False then
    'エラー処理
End If
.
.
.

```

3.8 文字列をテキストアイテムに設定する

テキストアイテムに文字列を設定するには、Text プロパティを使います。また、数値を文字列の数字に変換してテキストアイテムに設定するには、SetDoubleToStr メソッド、SetIntToStr メソッド、SetUIntToStr メソッドを使います。詳しくは各関数の仕様を参照してください。

サンプル

VB

```
'文字列 " ABCD あいうえお " を設定
Report1.Item("", "Label1").Text ="ABCD あいうえお"

'数値を設定 全角に変換・カンマ編集有り
' 1 2 3 , 4 5 6 , 7 8 9
Dim nVal As Long

nVal =123456789
If Report1.Item("", "Label2"). _
    SetIntToStr("", "", nVal, _
        edtHAN + edtCOMMA ) < 0 then
    'エラー処理
Exit Sub
End If
```


3.9 数値を文字列に変換してテキストアイテムに設定する

数値を文字列に変換してテキストアイテムに設定するには、SetDoubleToStr メソッド、SetIntToStr メソッド、SetUIntToStr メソッドを使います。整数型の場合は、SetIntToStr メソッド、SetUIntToStr メソッドを使います。浮動小数点型の場合は、SetDoubleToStr メソッドを使います。

サンプル

VB

```
Dim nVal As Long

'数値を設定 全角に変換・カンマ編集有り
' 1 2 3 , 4 5 6 , 7 8 9
nVal =123456789
If
Report1.Item("", "Label1").SetIntToStr("", "", nVal, edtZEN
+edtCOMMA )<0 then
    'エラー処理
    Exit Sub
End If

'数値を設定 漢数字多角文字に変換
' 壹億貳千參百四拾五萬六千七百八拾九
nVal =123456789
If
Report1.Item("", "Label2").SetIntToStr("", "", nVal, edtKNJ1 )<0
then
    'エラー処理
    Exit Sub
End If

'数値を設定 漢数字多角文字に変換
' 壹億貳千參百四十五萬六千七百八十九
nVal =123456789
If
Report1.Item("", "Label3").SetIntToStr("", "", nVal, edtKNJ2 )<0
then
    'エラー処理
    Exit Sub
End If

'数値を設定 漢数字に変換
' 一億二千三百四十五萬六千七百八十九
```

```

        nVal =123456789
    If Report1.Item("", "Label4"). _
        SetIntToStr("", "", nVal, edtKNJ3 ) < 0 then
        'エラー処理
        Exit Sub
    End If

    '数値を設定 漢数字に変換
    ' 一 二 三 四 五 六 七 八 九
    nVal =123456789
    If Report1.Item("", "Label5"). _
        SetIntToStr("", "", nVal, edtKNJ4 ) < 0 then
        'エラー処理
        Exit Sub
    End If

    '浮動小数点を文字列に変換 少数点以下3桁・切り捨て
    ' 1 2 3 4 . 5 6 7
    Dim dbVal As Double
    dbVal =1234.56789
    If Report1.Item("", "Label2"). _
        SetDoubleToStr("", "", dbVal ,3, edtZEN ) < 0 then
        'エラー処理
        Exit Sub
    End If

```

3.10 文字列をバーコードアイテムに設定する

3.10.1 文字列を設定する

バーコードアイテムに文字列を設定するには、Text プロパティを使います。また、数値を文字列の数字に変換してバーコードアイテムに設定するには、SetDoubleToStr メソッド、SetIntToStr メソッド、SetUIntToStr メソッドを使います。詳しくは各関数の仕様を参照してください。

サンプル

VB

```
'文字列 " 123456 " を設定
Report1.Item("", "Barcode1").Text = "123456"

'数値を設定
'SAMPLE1234AB
Dim nVal As Long

nVal =1234
If Report1.Item("", "Barcode2"). _
    SetIntToStr("SAMPLE", "AB", nVal, edtHAN ) < 0 then
    'エラー処理
    Exit Sub
End If
```

3.10.2 CODE 128に関する補足説明

CODE 128は、バーコードとそれを表すキャラクタが一對一になっているのは異なり、スタートキャラクタ、シフトキャラクタの選択により、一つのコードが3種類のデータを現せます。また、UPC CASE CODE ,EANの物流シンボル(UCC / EAN 128)として採用されています。

(1) キャラクタ構成表

指定できるキャラクタの構成表を以下に示します

数値	CODE A	CODE B	CODE C
0	[SP]	[SP]	00
1	!	!	01
2	“	“	02
3	#	#	03
4	\$	\$	04
5	%	%	05
6	&	&	06
7	‘	‘	07
8	((08
9))	09
10	*	*	10
11	+	+	11
12	,	,	12
13	-	-	13
14	.	.	14
15	/	/	15
16	0	0	16
17	1	1	17
18	2	2	18
19	3	3	19
20	4	4	20
21	5	5	21
22	6	6	22
23	7	7	23
24	8	8	24
25	9	9	25
26	:	:	26
27	;	;	27
28	<	<	28
29	=	=	29

数値	CODE A	CODE B	CODE C
54	V	V	54
55	W	W	55
56	X	X	56
57	Y	Y	57
58	Z	Z	58
59	[[1]]	59
60	¥	¥	60
61]] 1]]	61
62	^	^	62
63	_	_	63
64	[NUL]	`	64
65	[SOH]	a	65
66	[STX]	b	66
67	[ETX]	c	67
68	[EOT]	d	68
69	[ENQ]	e	69
70	[ACK]	f	70
71	[BEL]	g	71
72	[BS]	h	72
73	[HT]	l	73
74	[LF]	j	74
75	[VT]	k	75
76	[FF]	l	76
77	[CR]	m	77
78	[SO]	n	78
79	[SI]	o	79
80	[DLE]	p	80
81	[DC1]	q	81
82	[DC2]	r	82
83	[DC3]	s	83

30	>	>	30
31	?	?	31
32	@	@	32
33	A	A	33
34	B	B	34
35	C	C	35
36	D	D	36
37	E	E	37
38	F	F	38
39	G	G	39
40	H	H	40
41	I	I	41
42	J	J	42
43	K	K	43
44	L	L	44
45	M	M	45
46	N	N	46
47	O	O	47
48	P	P	48
49	Q	Q	49
50	R	R	50
51	S	S	51
52	T	T	52
53	U	U	53

84	[DC4]	t	84
85	[NAK]	u	85
86	[SYN]	v	86
87	[ETB]	w	87
88	[CAN]	x	88
89	[EM]	y	89
90	[SUB]	z	90
91	[ESC]	{	91
92	[FS]		92
93	[GS]	}	93
94	[RS]	~	94
95	[US]	[DEL]	95
96	[FNC3]	[FNC3]	96
97	[FNC2]	[FNC2]	97
98	[SHIFT]	[SHIFT]	98
99	[CODEC]	[CODEC]	99
100	[CODEB]	[CODEB]	100
101	[FNC4]	[FNC4]	101
102	[FNC1]	[FNC1]	102
103	A ([CODEA])		
104	B ([CODEB])		
105	C ([CODEC])		

- 1 カギ括弧 []は制御コードの開始終了を示すため、カギ括弧を現す場合は、連続して記述します。[[と記述したカギ括弧をバーコードリードで読み込んだ場合は []として読み込まれます。
- 2 制御コード (FNC 1, FNC 2, NUL, SOH...) はギ括弧で囲んで記述します。カギ括弧で囲まない場合、単なる文字列と認識されますので、必ず制御文字はカギ括弧 ([])で括ってください。
- 3 スタートコードは、A, B, C のどれかを記述します。途中でコードを変える場合は、[SHIFT] 又は直接 [CODEB], [CODEC] と記述します。

(2) コード記述例

・出荷用コンテナコード (EAN 1 2 8) の記述例

包装・JANコード・正味重量の順に表現するコード記述例とするとして、包装 9、JANコード4901234567894、正味重量355であるとして、この場合の記述は、半角文字列で、

スタートコード C
 スタートキャラクタセット [FNC 1]
 A I (出荷コンテナコード) 0 1

包装	9
JANコード	4 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 4
AI (正味重量)	3 1 0 1
正味重量値	0 0 0 3 2 5

上記文字列をつなぎ合わせて、

C [F N C 1] 0 1 9 4 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 4 3 1 0 1 0 0 0 3 2 5
となります。

3 . 1 0 . 3 EAN 1 2 8 に関する補足説明

EAN 1 2 8は、シンボル規格のCODE 1 2 8をベースにした物流用のアプリケーション規格です。アプリケーション識別子AIとそれに続くAIの内容を示すコードで構成されます。「AI + 内容コード」の組み合わせで梱包内容物に関する情報を現します。なお、指定できる文字は前述の「CODE 1 2 8 に関する補足説明」を参照してください。AIの値や、内容コードの仕様は、UCC / EAN 1 2 8の規格書を参照してください。

(1) コード記述例

・出荷用コンテナコード (EAN 1 2 8) の記述例

包装・JANコード・正味重量の順に表現するコード記述例とするとして、包装 9、JANコード4 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 4、正味重量3 5 5であるとして、この場合の記述は、半角文字列で、

スタートコード	C
スタートキャラクタセット	[F N C 1]
AI (出荷コンテナコード)	0 1
包装	9
JANコード	4 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 4
AI (正味重量)	3 1 0 1
正味重量値	0 0 0 3 2 5

上記文字列をつなぎ合わせて、

C [F N C 1] 0 1 9 4 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 4 3 1 0 1 0 0 0 3 2 5
となります。

3.10.4 CODE 39フルアスキーに関する補足説明

CODE 39フルアスキーは、CODE 39で使用するコードを2つ組み合わせて、フルアスキーを表示することができるようにしたものです。

(1) キャラクタ構成表

指定できるキャラクタ(ASCII)の構成と、CODE 39での組み合わせを以下に示します。

CODE39 フルアスキー	CODE39	CODE39 フルアスキー	CODE39	CODE39 フルアスキー	CODE39	CODE39 フルアスキー	CODE39
[NUL]	%U	空白	空白	@	%V	`	%W
[SOH]	\$A	!	/A	A	A	a	+A
[STX]	\$B	"	/B	B	B	b	+B
[ETX]	\$C	#	/C	C	C	c	+C
[EOT]	\$D	\$	/D	D	D	d	+D
[ENQ]	\$E	%	/E	E	E	e	+E
[ACK]	\$F	&	/F	F	F	f	+F
[BEL]	\$G	'	/G	G	G	g	+G
[BS]	\$H	(/H	H	H	h	+H
[HT]	\$I)	/I	I	I	i	+I
[LF]	\$J	*	/J	J	J	j	+J
[VT]	\$K	+	/K	K	K	k	+K
[FF]	\$L	,	/L	L	L	l	+L
[CR]	\$M	-	-	M	M	m	+M
[SO]	\$N	.	.	N	N	n	+N
[SI]	\$O	/	/O	O	O	o	+O
[DLE]	\$P	0	0	P	P	p	+P
[DC1]	\$Q	1	1	Q	Q	q	+Q
[DC2]	\$R	2	2	R	R	r	+R
[DC3]	\$S	3	3	S	S	s	+S
[DC4]	\$T	4	4	T	T	t	+T
[NAK]	\$U	5	5	U	U	u	+U
[SYN]	\$V	6	6	V	V	v	+V
[ETB]	\$W	7	7	W	W	w	+W
[CAN]	\$X	8	8	X	X	x	+X
[EM]	\$Y	9	9	Y	Y	y	+Y
[SUB]	\$Z	:	/Z	Z	Z	z	+Z
[ESC]	%A	;	%F	[[1	%K	{	%P
[FS]	%B	<	%G	¥	%L		%Q
[GS]	%C	=	%H]] 1	%M	}	%R
[RS]	%D	>	%I	^	%N	~	%S

[US]	%E	?	%J	_	%O	[DEL] 2	%T
------	----	---	----	---	----	------------	----

- 1 カギ括弧 [] は制御コードの開始終了を示すため、カギ括弧を現す場合は、連続して記述します。[[と記述したカギ括弧をバーコードリードで読み込んだ場合は [] として読み込まれます。
- 2 CODE39 で、%X,%Y,%Z も CODE39 フルアスキーの DEL を現します。
- 3 制御コード (NUL,SOH,STX...) はカギ括弧で囲んで記述します。カギ括弧で囲まない場合、単なる文字列と認識されますので、必ず制御文字はカギ括弧([]) で括ってください。

(2) コード記述例

- ・最後に改行コード付加した文字列を指定する場合
“ [SAMPLE] ” という文字列に改行コードを追加して表示する場合は、
[[SAMPLE]][CR]
と記述します。

3.1.1 フォントの色・体裁をテキストアイテムに設定する

フォントの色・体裁をテキストアイテムに設定するには、FontColor プロパティ、FontName プロパティ、FontSize プロパティ、FontStyle プロパティを使います。詳しくは各関数仕様を参照してください。

サンプル

VB

```
Dim FontName As String 'フォント名
Dim nFontStyle As Long 'フォントスタイル
Dim nFontSize As Long 'フォントサイズ
Dim crFontColor As Long 'フォントの色

'現在のフォント設定を取得
FontName =Report1.Item("", "Label1").FontName
nFontStyle =Report1.SelectedItem.FontStyle
nFontSize =Report1.SelectedItem.FontSize
crFontColor =Report1.SelectedItem.FontColor

'フォントサイズを 12 点 斜体 色を赤色にする
Report1.SelectedItem.FontSize =12*10

Report1.SelectedItem.FontStyle =nFontStyle Or fsBOLD
Report1.SelectedItem.FontColor =vbRed
.
.
.
```

3.12 表示・非表示をアイテムに設定する

表示・非表示をアイテムに設定するには、SVisible プロパティを使います。詳しくは Visible プロパティを参照してください。

サンプル

VB

```
'Lable1 アイテムを非表示にする
Report1.Item("", "Label1").Visible =False

'Lable2 アイテムを表示する
Report1.Item("", "Label2").Visible =True
.
.
.
```

3.13 枠や線の色・模様, 塗りつぶしの色・模様をアイテムに設定する

枠や線の色・模様をアイテムに設定するには、CapStyle プロパティ, PenColor プロパティ, PenStyle プロパティ, PenWidth プロパティ, Round プロパティ使います。また、塗りつぶしの色・模様を設定するには BrushColor プロパティ, BrushStyle プロパティを使います。詳しくは各プロパティの仕様を参照してください。

サンプル

VB

```
'破線で、色は赤で、太さ 1.5 ポに設定
Report1.Item("", "Label1").PenStyle = psDASH
Report1.SelectedItem.PenColor = vbRed
Report1.SelectedItem.PenWidth = 150

'点線で、色は青、角に丸みをつける (半径 5mm の R)
Report1.Item("", "Box1").PenStyle = psDOT
Report1.SelectedItem.PenColor = vbBlue
Report1.SelectedItem.Round = 500

'塗りつぶし色 赤、網目模様で塗りつぶし
Report1.Item("", "Box2").BrushColor = vbYellow
Report1.SelectedItem.BrushStyle = bsPATTERN4
.
.
.
```

3.14 イメージをイメージアイテムに設定する

イメージをイメージアイテムに設定するには、SetImagePath, SetImageDIB メソッドを使います。SetImagePath メソッドは、イメージファイルをイメージアイテムに読み込ませるために使います。また、SetImageDIB メソッドは直接、デバイス非依存型ビットマップをイメージアイテムにコピーするために使います。詳しくは各メソッドの仕様を参照してください。

サンプル

VB

```
'JPG ファイル読み込んで表示させる
'イメージパスを設定
Report1.Item("", "Image1").ImagePath = "C:¥Test01.jpg"

'http サーバー上の JPG ファイル読み込んで表示させる
'イメージパスを設定
Report1.Item("", "Image1").ImagePath = _
    "http://www.com-ware.jp/Report/TEST01.jpg"
.
.
.
```

3.15 ASP.NETのサーバーサイドのプログラム例

ASP.NETのサーバーサイドのプログラムでは、前述したプロジェクトへの組み込み(1.1 レポート印刷エンジンのプロジェクトへの組み込み)した後に、レポートエンジンオブジェクトをプログラム内で定義する必要があります。ウェブフォームのPublic宣言内に

```
Public Report1 As New COREPOXLib.Report()  
と宣言します。
```

サーバーサイドから直接クライアントのプリンタへ結果を出力できません。このため、サーバーサイドで、印刷データを作成し、クライアントサイドで、結果の印刷を行います。クライアントサイドでの印刷方法は、ActiveX印刷エンジンをHTMLに貼り付けて、制御する方法と、簡易ビューアー(COREPO Viewer)でプレビューする、2通りの方法があります。ActiveX印刷エンジンをHTMLに貼り付けて、制御する方法は提供されているサンプルを参考にしてください。簡易ビューアー(COREPO Viewer)でプレビューする場合は、簡易ビューアー(COREPO Viewer)をクライアントPCにあらかじめ、インストールしておく必要があります。

サンプル サーバーサイド VB.NET ASP

VB

```
Public Class WebForm1  
    Inherits System.Web.UI.Page  
    Protected WithEvents Button2 As System.Web.UI.WebControls.Button  
    Protected WithEvents TextBox1 As System.Web.UI.WebControls.TextBox  
    Protected WithEvents TextBox2 As System.Web.UI.WebControls.TextBox  
    Public Report1 As New COREPOXLib.Report() 'コレポ印刷エンジンオブジ  
    エクト宣言  
        .  
        .  
        .  
        'レポートを開く  
        Report1.ReportPath = "c:¥itemprop.crp"  
        '印刷JOBの開始(C:¥ASPNET¥ASPTTEST.crdへ印刷データを出力)  
        If Report1.OpenPrintJob("C:¥ASPNET¥ASPTTEST.crd", _  
                                COREPOXLib.cwPrintFlags.prtFILE, _  
                                False, "", 0) = False Then  
            'エラー処理  
        End If  
        .  
        .  
        .  
        'レポートの印刷  
        If Report1.PrintReport() = False Then  
            'エラー処理
```

```
End If
```

```
'印刷JOBの終了(ファイルを閉じる)  
Report1.ClosePrintJob(True)
```

```
'レポートを閉じる  
Report1.ReportPath = ""
```

付録

エラーコード

エラーコード	説明
括弧内は 16 進数表現	
0	(0) エラーは有りません。
1	(1) 既に印刷エンジンはオープンされています。
2	(2) 印刷エンジンはオープンされていません。
3	(3) ハンドルの値が不正です。
4	(4) グループ名又はアイテム名の指定に誤りがあります。
5	(5) 範囲を超えています。
6	(6) 指定した値はサポートされていません。
7	(7) 指定したファイルが見つかりません。
8	(8) ビットマップをコピーできません。
9	(9) 指定したパラメータに誤りがあります。
257	(101) レポートファイルを開けません。
258	(102) レポートファイルの読み込み中にエラーが発生しました。
259	(103) レポートファイルが壊れています。
260	(104) 指定したファイルはレポートファイルでは有りません。
261	(105) レポートファイルの読み込み中に CRC エラーが発生しました。
262	(106) レポートが開かれていません。
513	(201) 既に印刷ジョブは開かれています。
514	(202) 印刷ジョブは開かれていません。
515	(203) 印刷ジョブはユーザーによりキャンセルされました。
1026	(402) 既に同名のアイテムが有ります。
2049	(801) プレビューウィンドは開かれていません。
268435456 (1000000)	システムエラーが発生しました。

参照

GetLastError

索引

B

BarBackColor プロパティ, 71
Barcode プロパティ, 72
BarcodeRotate プロパティ, 73
BarColor プロパティ, 74
BarRatio プロパティ, 75
Bound メソッド, 105
BrushColor プロパティ, 76
BrushStyle プロパティ, 77

C

CapStyle プロパティ, 78
CharSpace プロパティ, 79
CheckDupBound メソッド, 106
CheckDupGrpBound メソッド, 47
Clear メソッド, 107
ClearAllBarcode メソッド, 48
ClearAllImage メソッド, 49
ClearAllText メソッド, 50
CloseButton プロパティ, 124
ClosePrintJob メソッド, 51
Copies プロパティ, 26
CreateItem メソッド, 53
CreateReport メソッド, 52

D

DefaultSource プロパティ, 27
DeleteItem メソッド, 54
SetDEVMODE メソッド, 68
SetDIBits メソッド, 113
SetDPI メソッド, 114
DoPrint メソッド, 137
DupBoxLine メソッド, 108
DupGroup メソッド, 55

E

ErrorCode プロパティ, 28

F

Fixed プロパティ, 80
FontColor プロパティ, 81
FontName プロパティ, 82
FontSize プロパティ, 83
FontStyle プロパティ, 84

G

GroupName プロパティ, 85

H

hCwRep プロパティ, 29
Height プロパティ, 86, 125
HidePreview メソッド, 138
HorzAlign プロパティ, 87
hWnd プロパティ, 126

I

ImageStretch プロパティ, 88
Item メソッド, 56
ItemByGrpIdx メソッド, 57
ItemName プロパティ, 89
ItemType プロパティ, 90

L

Left プロパティ, 91, 127
LineSpace プロパティ, 92

M

MaxPage プロパティ, 128
MultiLine プロパティ, 93

N

NetPassword プロパティ, 31
NetPort プロパティ, 30
NetUserName プロパティ, 32

O

OpenPrintJob メソッド, 58
Orientation プロパティ, 33
OverlayPage プロパティ, 34

P

Page プロパティ, 129
PaperLength プロパティ, 35
PaperSize プロパティ, 36
PaperWidth プロパティ, 37
PenColor プロパティ, 94
PenStyle プロパティ, 95
PenWidth プロパティ, 96
Preview プロパティ, 38
PrintButton プロパティ, 130
PrinterName プロパティ, 39
PrinterSetupDlg メソッド, 60
PrinterSetupDlg2 メソッド, 61
PrintReport メソッド, 62
ProxyServer プロパティ, 40
PrtFilePath プロパティ, 41

R

Rename メソッド, 110
Repeat メソッド, 111
RepeatGroup メソッド, 63
ReportPath プロパティ, 42
Round プロパティ, 97

S

SelectedItem プロパティ, 43
SelectedPage プロパティ, 44
SelectFirstItem メソッド, 64
SelectItem メソッド, 65
SelectItemByGrpIdx メソッド, 66

SelectNextItem メソッド, 67
SetBounds メソッド, 139
SetDoubleToStr メソッド, 115
SetForeground メソッド, 117
SetImageDIB メソッド, 118
SetImagePath メソッド, 119
SetIntToStr メソッド, 120
SetOffset メソッド, 70
SetUIntToStr メソッド, 122
ShowPreview メソッド, 140
Status プロパティ, 131
StatusBar プロパティ, 132

T

Text プロパティ, 98
TextEscapement プロパティ, 99
GetTextMetrics メソッド, 109
ToolBar プロパティ, 133
Top プロパティ, 100, 134

V

Version プロパティ, 45
VertAlign プロパティ, 101
ViewScale プロパティ, 135
Visible プロパティ, 102
SetGrpVisible メソッド, 69

W

Width プロパティ, 103, 136
WinErrorCode プロパティ, 46
Wordwrap プロパティ, 104

あ

アイテム・オブジェクトのプロパティメ/メソッド, 71
アイテム・オブジェクトのプロパティメ/メソッド一覧, 22

い

イメージをイメージアイテムに設定する, 158

印刷ジョブ・セッションの開始と終了, 142
印刷データのファイル出力, 143
印刷データファイルの印刷, 147
イントロダクション, 11

え

ASP サーバーサイド・プログラミングでの制限,
19
ASP.NETのサーバーサイドのプログラ
ム例, 159
エラーコード, 161
エラーコードの取得, 148

こ

ごあいさつ, 7
コントロール・リファレンス, 26
コントロールを HTML ページで使用する, 18

さ

サポート, 8

す

数値を文字列に変換してテキストアイテムに
設定する, 152

と

動作環境, 9
特徴, 10

は

配布可能ファイル, 17

ひ

表示・非表示をアイテムに設定する, 156

ふ

フォントの色・体裁をテキストアイテムに設定
する, 155
プレビュー・オブジェクトのプロパティ/メソ
ッド, 124
プレビュー・オブジェクトのプロパティ/メソ
ッド一覧, 25
付録, 161
プログラミング・ガイド, 141
プログラミングの概要, 15

も

文字列をテキストアイテムに設定する, 151
文字列をバーコードアイテムに設定する, 154

よ

用紙やプリンタの設定, 149

り

リピートモードでの印刷, 144

れ

レポート・オブジェクトのプロパティメ/メソ
ッド, 26
レポート・オブジェクトのプロパティメ/メソ
ッド一覧, 20
レポートアクセス・セッションの開始と終了,
141
レポート印刷エンジンのプロジェクトへの組
み込み, 11

わ

枠や線の色・模様, 塗りつぶしの色・模様をア
イテムに設定する, 157

帳票作成/印刷支援ツール

COREPO

ActiveX 版 印刷エンジンリファレンス ガイド

2003年 3月14日 初版発行

2004年10月18日 第7版発行

Copyright(C)2003 有限会社コムウェア
All rights reserved.

発行 有限会社コムウェア

〒373-0801 太田市台之郷町 601-2

. 0276-48-0811 Fax.0276-48-0815

ファイル名 : コレポ ActiveX エンジン リファレンス.doc
フォルダ : C:\USERS\COREPO Help
テンプレート : C:\Documents and Settings\Hirofumi
Hamada\Application Data\Microsoft\Templates\Normal.dot
表題 : C O M W A R E
副題 :
作成者 : Hirofumi Hamada
キーワード :
説明 :
作成日時 : 2003/03/19 8:10
変更回数 : 112
最終保存日時 : 2004/10/18 17:55
最終保存者 : Hirofumi Hamada
編集時間 : 979 分
最終印刷日時 : 2004/10/18 19:06
最終印刷時のカウント
ページ数 : 171
単語数 : 14,369 (約)
文字数 : 81,904 (約)